

菊池市長期人口ビジョン



平成28年3月

菊池市

菊池市長期人口ビジョン

目次

項 目	頁
はじめに	-1-
I. 人口問題における菊池市の現状	-2-
1) 菊池市の人口推計の現状	
2) 自然増減及び社会増減	-3-
ア 自然増減の推移	
イ 出生数と合計特殊出生率の推移	
ウ 社会増減の推移	-4-
【表6】	-5-
3) 男女別産業人口と年齢階級別産業人口割合	-6-
II. 将来人口推計による分析	-7-
1) 将来人口シミュレーションの結果	
ア 合計特殊出生率2.07（人口置換水準）を実現しても人口は安定しない	
イ 人口減少対策の効果が早期に発揮されるほど将来の安定人口数は多くなる	-8-
III. 人口減少による経済への影響	-9-
IV. 本市の長期人口ビジョン	-10-
1) 今後の基本的な考え方	
2) 目指すべき将来の方向	
V 将来展望	-11-
1) 菊池市の人口ビジョンにおける3つの視点	
ア 合計特殊出生率を2040年までに2.10まで上昇させることを目指す	
イ 2040年を目途に社会動態±0を目指す	
ウ 地域資源を活かした産業と観光による交流人口の増加を図る	
【表6】	-12-
おわりに	
菊池市長期人口ビジョン策定資料	

はじめに

本市は、平成27年3月で新市合併10周年を迎え、旧4市町村の枠を超えた一体感の醸成と均衡ある発展を目指して、新たなまちづくりに取り組んできました。

この間、社会情勢は大きく変化を遂げており、東京への人口一極集中や地方における少子高齢化による人口の減少、それに伴うコミュニティ機能の低下、大きな自然災害を契機とした防災意識の高まりなど、住民意識は複雑かつ多様化してきております。

このような社会の波は、本市においても例外なく押し寄せており、人口減少に伴う中山間地域の活性化対策、商店街の再興は急務の課題であり、社会情勢の変化に対応した安心・安全なまちづくりは、行政の責務といえます。

こうした背景を踏まえながら、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的として「きくちまち・ひと・しごと創生総合戦略本部」を平成26年11月1日に設置しました。

この総合戦略本部会議での検討結果をもとに菊池市の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（長期ビジョン）」及びこれを実現するため、今後5か年の目標や施策や基本的な方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合戦略）」を策定しました。

この長期ビジョンと総合戦略は、平成27年3月に策定した第2次菊池市総合計画を基本とし、向こう5年間に於いて、より重点的に取り組む施策を盛り込んでおります。

本市には、古くから受け継がれてきた豊かな自然や、伝統・歴史・文化といった数多くの誇るべき資産が眠っています。

私たちは、その宝（資産）を今一度掘り起こし、さらに磨きをかけ次の世代へ引き継ぐのと同時に、その宝を活かしたまちづくりこそが地域の再興、そして「癒しの里きくち」の実現につながるものと考えております。

自治体消滅という言葉すら聞こえるなか、市民と行政がそれぞれの立場で役割を担い、責任を果たしながら協働と連帯によって英知を結集する、いわゆる「市民力」こそが最大の力と考えます。

人口減少問題は、必ずしも行政のみで解決できる問題ではありません。市民の皆様はもちろん、産・官・学・金・労・言といったあらゆる皆様に協力をいただきながら、人口減少対策に取り組んで参ります。

I.人口問題における菊池市の現状

1) 菊池市の人口推計の現状

本市の人口（国勢調査データ参照）は、1955年（昭和30年 約61,000人）頃に一旦ピークを迎え、その後、1975年（昭和50年 約48,000人）頃までは減少が続き、そこから2000年（平成12年 約53,000人）まで再び増加した後、今日に至るまでは減少傾向が続いております。【表—1】

さらに現状の人口動態が今後も続いた場合、国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の調査をもとに推計すると2040年（平成52年）には人口37,853人となり、2060年（平成72年）には29,168人まで減少していくものと見込まれております。

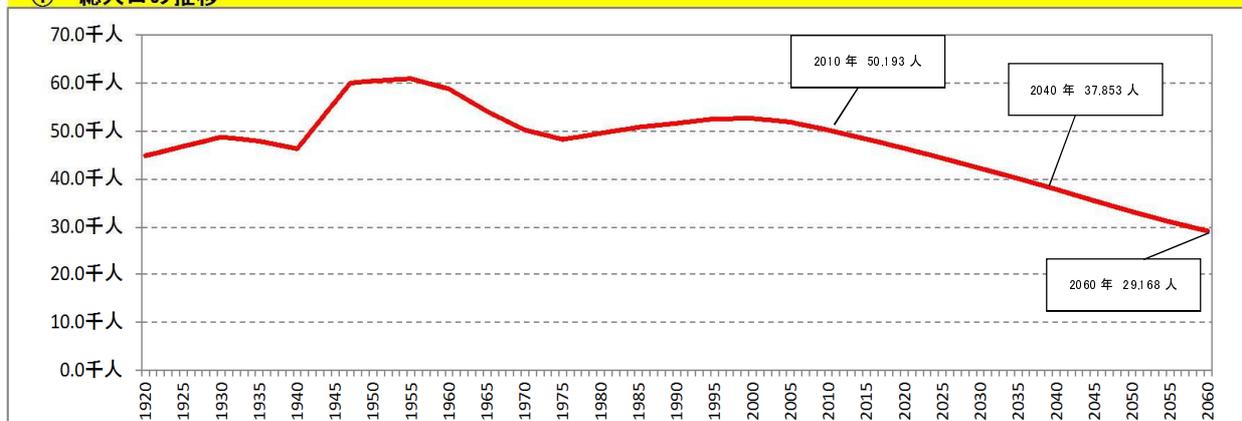
また、2010年（平成22年）の15歳未満の年少人口は6,749人（13.4%）ですが、2040年（平成52年）には、4,309人（11.4%）と減少する一方で、65歳以上の老年人口は、2025年（平成37年）以降は減少するものの、総人口に占める割合は上昇する（2040年（平成52年）36.7%）と推計されています。

【表—1】

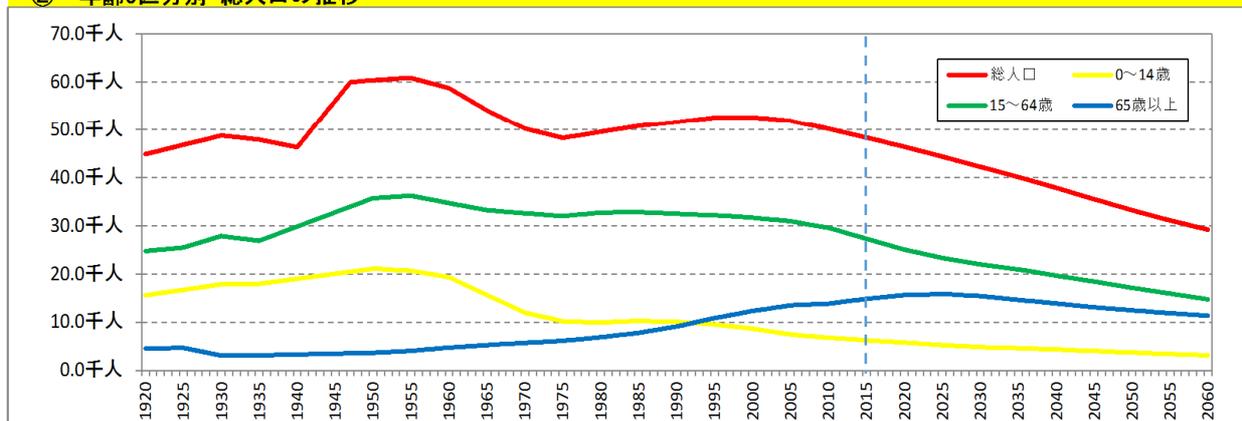
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計

**①②総人口の推移（年齢3区分含む） 2010年まで国勢調査であり、以降は社人研推定。
【菊池市】 【43210】**

① 総人口の推移



② 年齢3区分別 総人口の推移



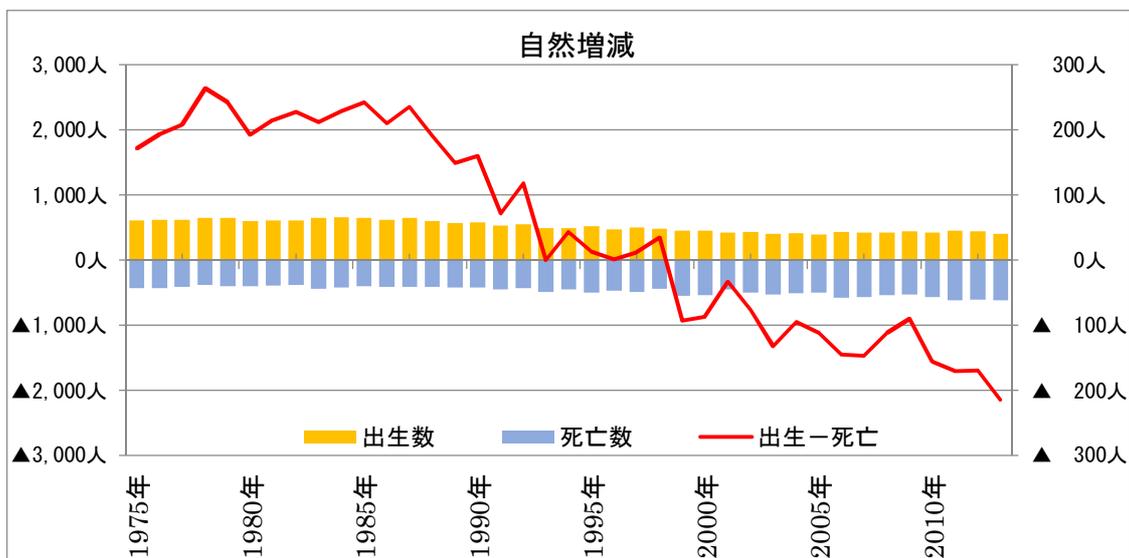
2) 自然増減及び社会増減

ア 自然増減の推移

本市の自然増減（出生数－死亡数）の推移としては、1998年（平成10年）までは、出生数が死亡数を上回る「自然増」となっていますが、1999年（平成11年）以降は、死亡数が出生数を上回る「自然減」に転じ、減少幅は増加傾向となっております。

【表一2】

出典：熊本県推計人口調査



イ 出生数と合計特殊出生率¹⁾の推移

本市の出生数は、1984年（昭和59年）から減少傾向にあり、近年では400人～450人で推移しております。また、合計特殊出生率は、1.59まで減少したものの、近年はわずかながら上昇傾向にあります。

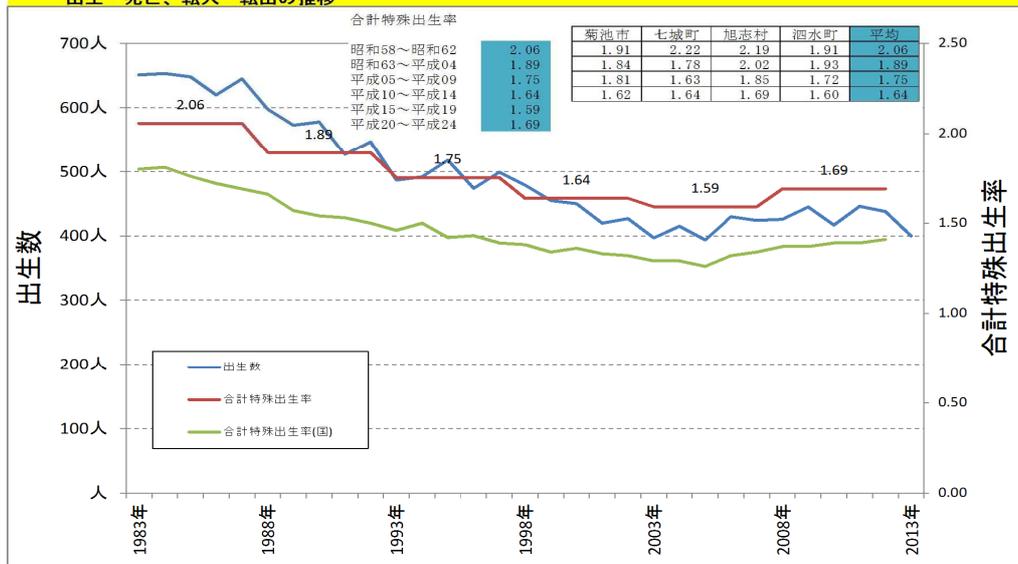
【表一3】

出典：人口動態統計、熊本県推計人口調査

⑩ 出生数と合計特殊出生率

【菊池市】 【43210】

出生・死亡・転入・転出の推移



1) 合計特殊出生率・・・女性の年齢別出生率の合計で、一人の女子（15歳から49歳）がその年次の年齢別出生率で一生涯の間に子どもを産むとしたときの子ども数

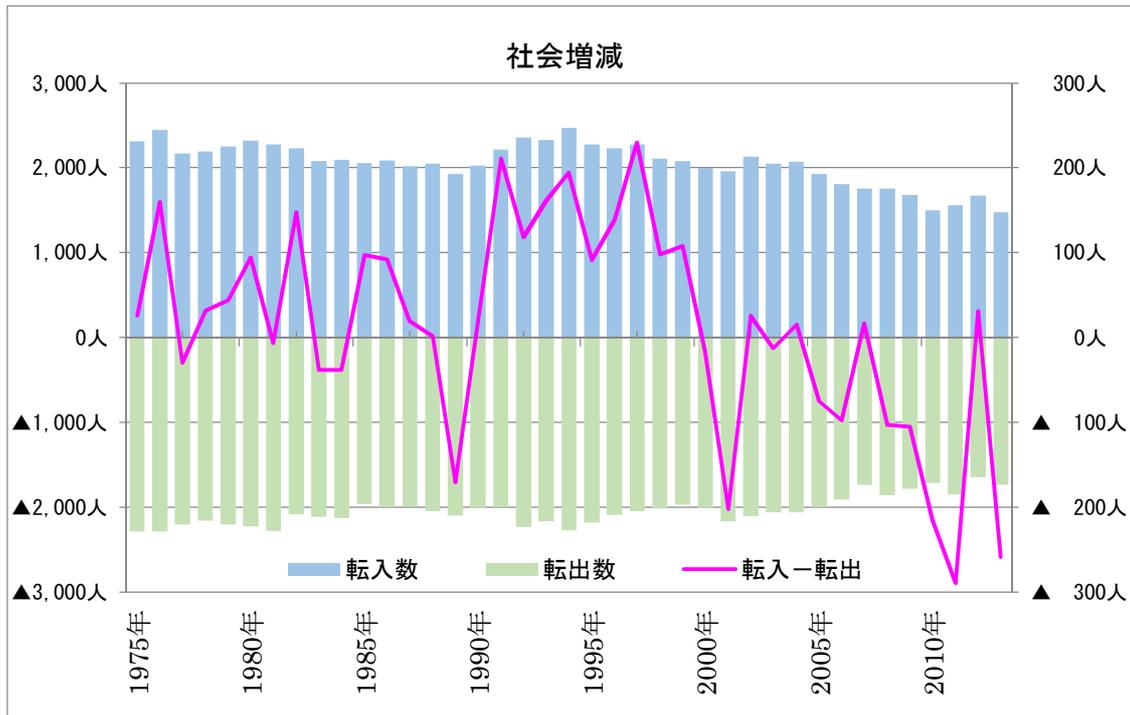
ウ 社会増減の推移

本市の社会増減（転入数－転出数）の推移を見ると、2000年（平成12年）から減少傾向である【表一4】とともに、進学、就職等に係る15歳から24歳までの若年層世代において、転出者数が転入者数を上回る「転出超過」が大部分を占めています。【表一5】

また、転出先は関東や関西より熊本都市圏への移動が顕著に見られます。【表一6】

【表一4】

出典：熊本県推計人口調査

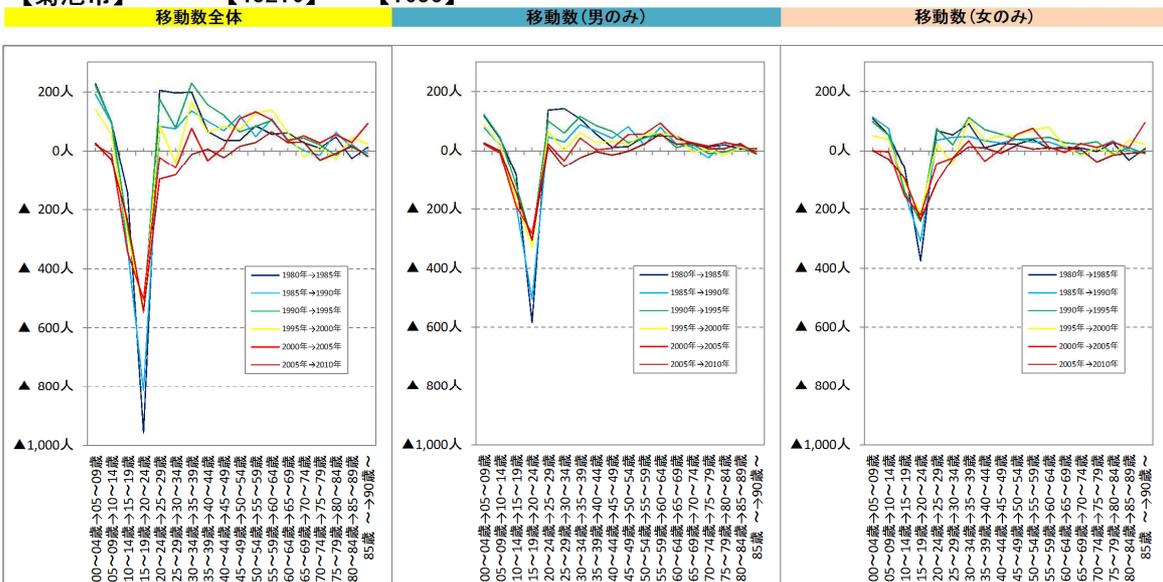


【表一5】

出典：国勢調査

⑦年齢階級別 人口移動数について

【菊池市】 【43210】 【1635】



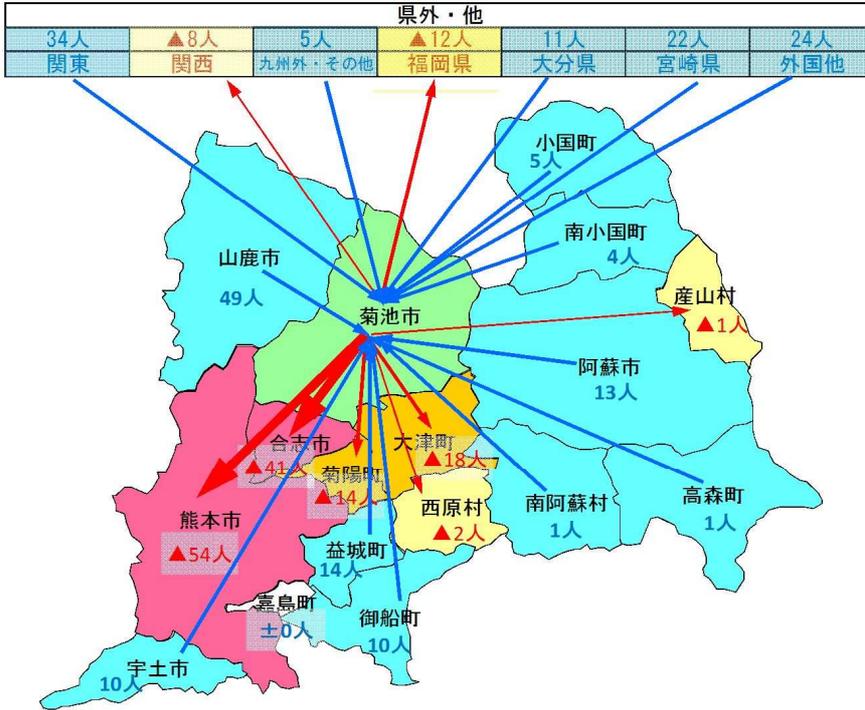
【表一6】

出典：国勢調査

【菊池市】

転入—転出者数

2012年度（平成24年度）



【県外】

転入者数①	558人
転出者数②	503人
差引①-②	55人

青文字=転入超過
赤文字=転出超過

県内	
熊本市	▲54人
合志市	▲41人
大津町	▲18人

【県内】

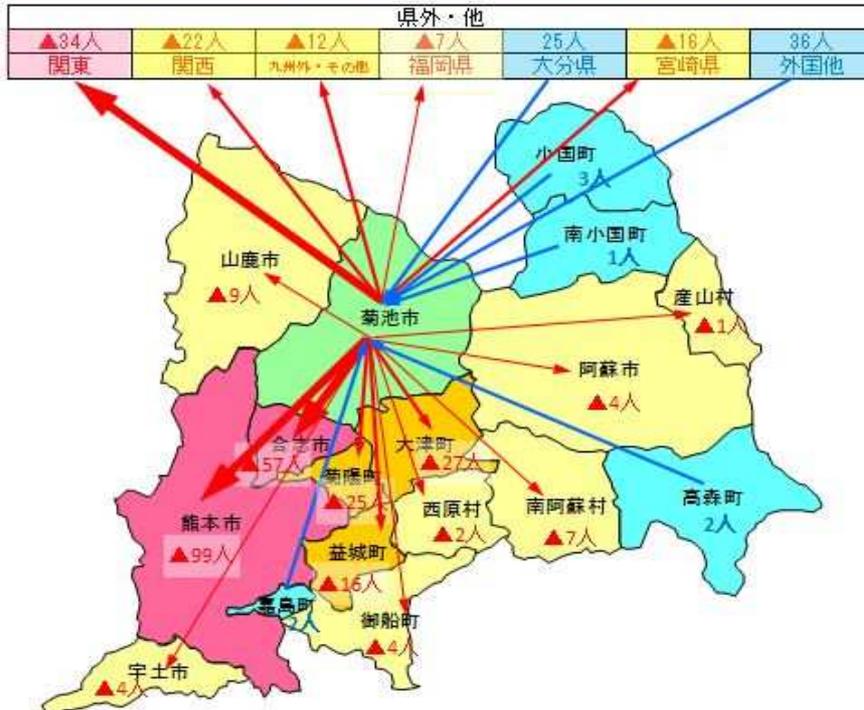
転入者数①	1,004人
転出者数②	1,012人
差引①-②	▲8人

転出について		
10人以下	←	
11~30人以下	←←	
31人以上	←←←	
転入について		
すべて	←	

【菊池市】

転入—転出者数

2013年度（平成25年度）



【県外】

転入者数①	489人
転出者数②	534人
差引①-②	▲45人

青文字=転入超過
赤文字=転出超過

県内	
熊本市	▲99人
合志市	▲57人
大津町	▲27人

【県内】

転入者数①	898人
転出者数②	1,113人
差引①-②	▲215人

転出について		
10人以下	←	
11~30人以下	←←	
31人以上	←←←	
転入について		
すべて	←	

3) 男女別産業人口と年齢階級別産業人口割合

男女別産業人口を見ると、男性の就業者が多い業種としては、「農業・林業」、「製造業」、「建設業」、「卸売業・小売業」等となっており、女性の就業者が多い業種としては、「医療・福祉」、「農業・林業」、「製造業」、「卸売業・小売業」等です。

また、県内就業者比率と比較した係数²⁾を見ると、男女とも農業が最も高く、男性が2.04、女性が1.92となっています。次に男性では「製造業」と「複合サービス業」が1.38、女性では「製造業」1.70となっており、第1次産業の就業者の割合が高いことがわかります。

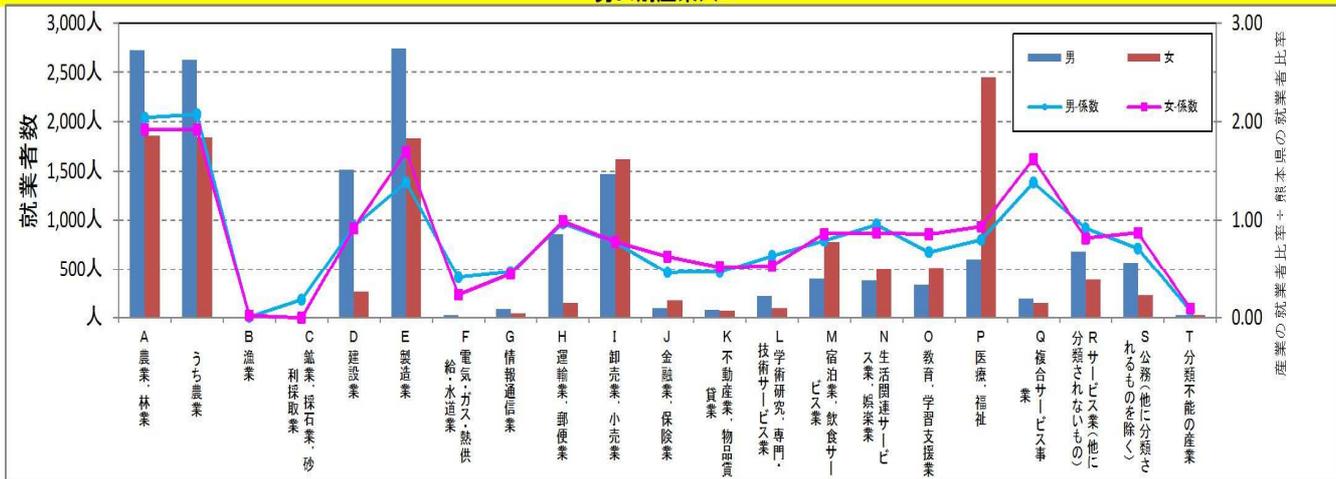
次に、年齢階級別産業人口割合（主なもの）では、男女とも「農業・林業」の高齢化が顕著に見られます。

【表一七】

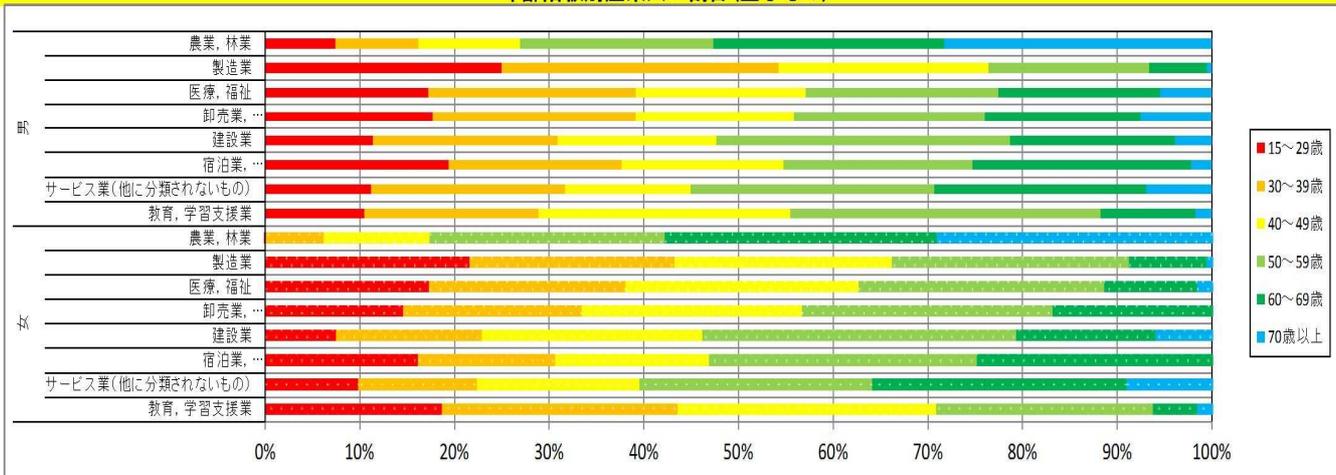
出典：国勢調査

⑰⑱ 男女別産業人口と年齢階級別産業人口割合 【菊池市】 【43210】

男女別産業人口



年齢階級別産業人口割合(主なもの)



2) 係数・・・本市の産業の就業者比率／熊本県の産業の就業者比率

Ⅱ.将来人口推計による分析

1) 将来人口推計シミュレーションの結果

本市の長期的な人口ビジョンを策定するために、将来人口推計シミュレーションを行った結果、以下のような実態が見えてきました。

ア 合計特殊出生率2.07（人口置換水準）を実現しても人口は安定しない

本市においては、先進国の人口置換水準³⁾の合計特殊出生率である2.07以上を維持しても、社会動態による人口減少、中でも特に15歳～24歳というこれから地域を担い、結婚及び出産をする可能性の高い若年層の減少の影響により、人口は減少し続ける。よって、人口の長期安定のためには、社会動態による人口減少を解決する必要があります。

【表-8】

⑩将来人口シミュレーションについて (①…合計特殊出生率2.1まで上昇。②…①かつ人口移動が均衡)

【菊池市】

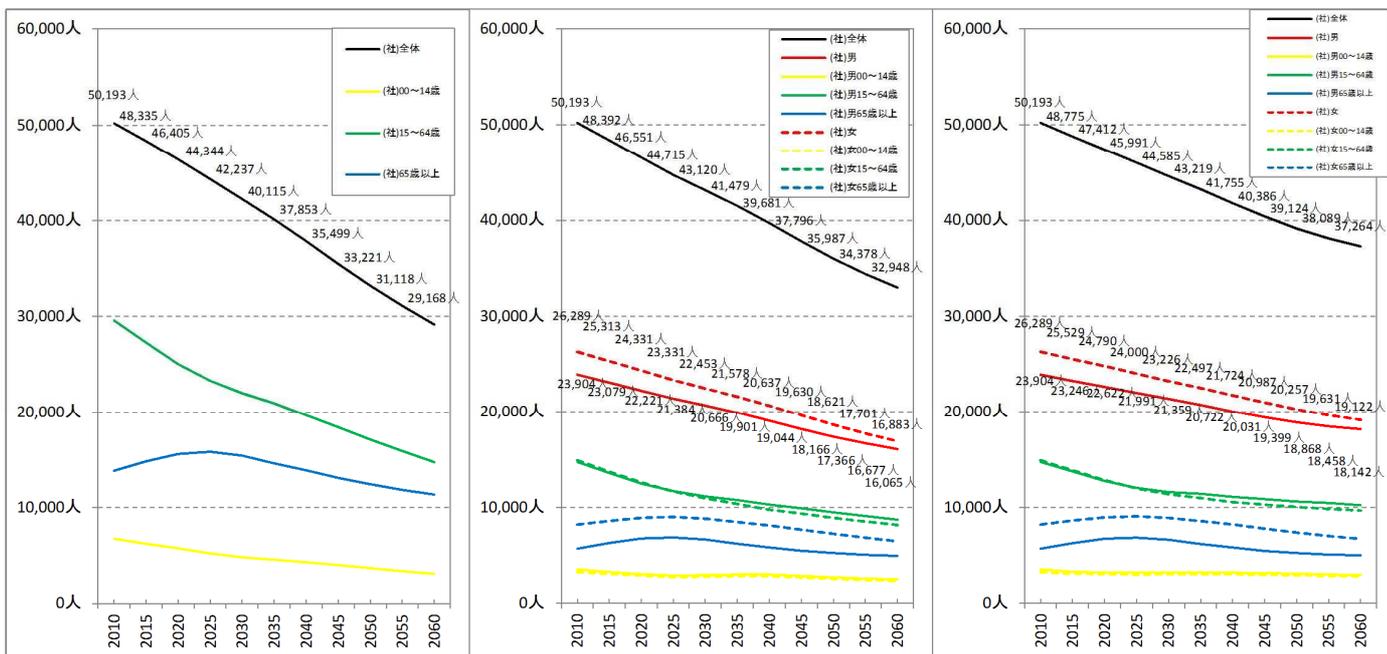
【43210】

【1635】

人口推計 全体

シミュレーション①

シミュレーション②

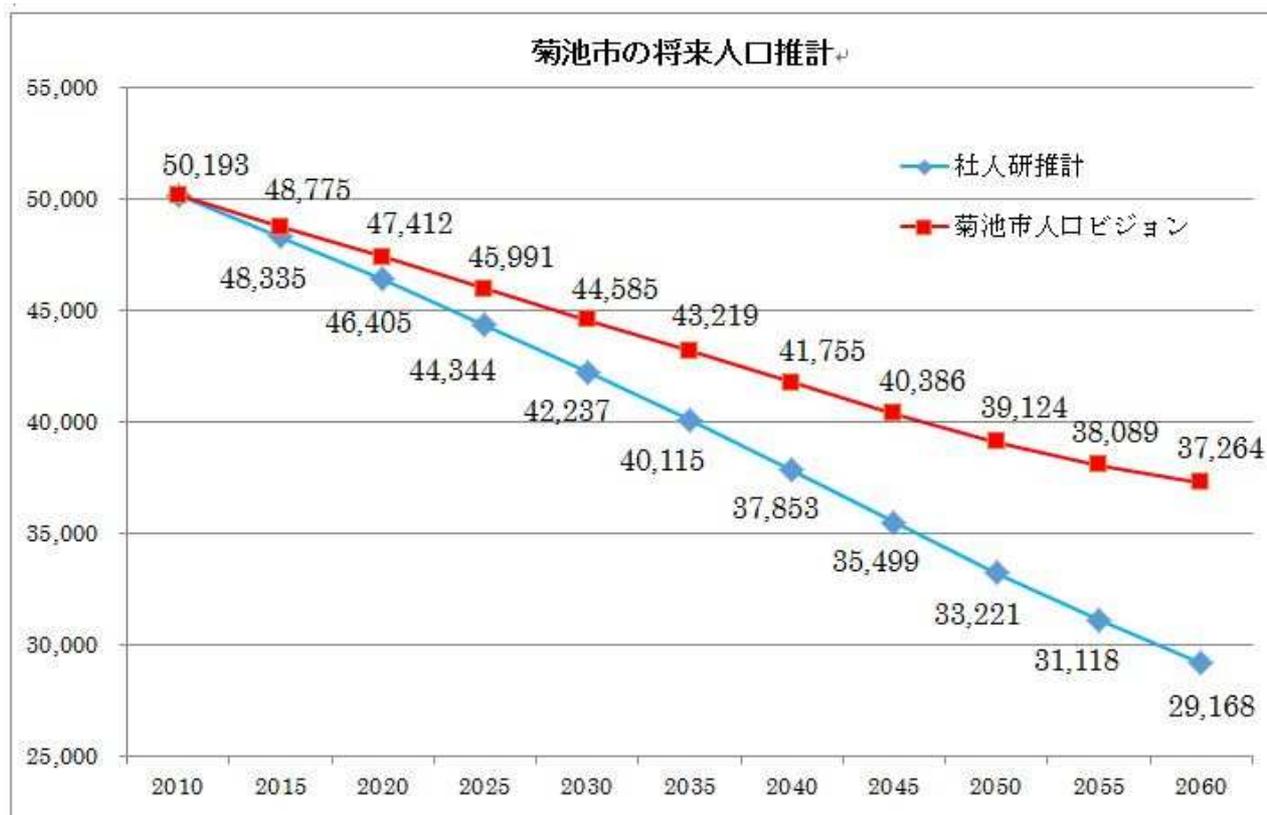


3) 人口置換水準・・・人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のこと。

イ 人口減少対策の効果が早期に発揮されるほど将来の安定人口⁴⁾数は多くなる

人口問題とその対策の効果が目に見えて現れるまでには、出産のサイクルが30年程度であるため、基本的に数十年単位の期間を要するため、早期に対策を講じることが将来の人口構成や安定人口数に大きな影響を与えます。

【表－9】



4) 安定人口・・・自然動態における出生率及び死亡率並びに社会動態における純移動率が均衡して一定に保たれると、長期的には人口数はほぼ一定となる。そのような人口を安定人口という。

Ⅲ. 人口減少による経済への影響

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」にも記載されているように人口減少及び高齢化は基本的に経済に対してマイナスの影響を与えます。

経済省統計局の家計調査によると、定住人口一人当たりの消費支出⁵⁾は平均で約124万円/年です。現状では、毎年約260人の人口減少であることからすると124万円/年×260人=3億2,240万円/年のペースで経済規模（消費支出）が縮小し続けていることになる。当然、消費支出の全額が市内で消費されるわけではありませんが、その影響はかなり大きいと考えられます。

また、若年層の流出は、将来の結婚や出産・子育てなどによる消費を考えると、上記の数字以上に経済への影響力が大きいのは明らかです。

さらに、経済規模の縮小のみならず、人口減少に伴う高齢化による社会保障費の増大等が、働き手一人当たりの負担として重くのしかかり、勤労意欲の低下やイノベーションの停滞が発生する恐れがあることや、人口減少による経済規模の縮小による仕事の減少により、さらに仕事を求めて人口が流出する恐れがあります。

また、人口が減少した場合でも、行政コストを完全に比例して減らすことは難しく、結果として行政サービスの低下や一人当たりの行政コストが大きくなる可能性もあります。

このように経済的な観点から見ても、人口減少問題によるさまざまな影響を捉えていくと同時に、効果的・効率的な行政サービス等の推進を図っていく必要があります。

5) 消費支出・・・生活するうえで、必要となる家計の支出のこと。また、税金や社会保障料などを非消費支出という。実収入－非消費支出＝可処分所得＝消費支出＋貯蓄 となる。

IV.本市の長期人口ビジョン

1) 今後の基本的な考え方

人口減少問題は、地域経済や市民生活に大きな影響を与える極めて深刻な問題であり、その克服に向けては市を挙げて取り組んでいく必要があり、早急に対応すればするほど、将来人口に与える効果は大きくなります。

そのためには、私たちの暮らし自体が穏やかで住みやすく、人を惹きつける魅力的なまちづくりである「癒しの里さくち」の実現に向け、さらに加速化していく必要があります。

今後も本市の宝（地域資源）を活かした産業と観光を柱とした交流人口の増加を図るとともに、併せて雇用対策や子育て支援などの取り組みを強化し、若い世代の結婚・子育て等に関する希望を実現することで、「このまちに生まれてよかった、住んでよかった」と思えるような、活力ある菊池市を推進します。

2) 目指すべき将来の方向

人口減少に歯止めをかけるとともに、人口流出を抑制するため、本市の総合戦略では、基本目標として以下の4つを設定します。

基本目標1	菊池の宝を発信し、ひとが繋ぐ“交流のまち”へ
基本目標2	稼ぐ力の創出で“働きたいまち”へ
基本目標3	人を大切に“一人ひとりが輝くまち”へ
基本目標4	安心・安全な“住みやすいまち”へ

V 将来展望

本市の人口の将来展望は、2060年（平成72年）に人口37,000人を確保するため、以下の視点により長期的な安定人口の実現を目指していきます。

1) 菊池市の人口ビジョンにおける3つの視点

ア 合計特殊出生率を2040年までに2.10まで上昇させることを目指す

本市は、国の少子化対策施策等と歩調をあわせるとともに、市独自の取り組みを進めていくことで、2020年（平成32年）に出生率＝1.90、2030年（平成42年）に2.00、2040年（平成52年）に2.10”となることを目指します。

イ 2040年を目途に社会動態±0を目指す（人口の流入促進と流出抑制）

本市の場合、高校卒業（大学進学・就職等）時の人口流出が多く、この流出を解消しなければ人口は安定しません。

よって、地元高校卒業生や大学に進学等のために流出したものが、就職できるように、企業誘致を進めるとともに、本市の地域資源を活かした産業での雇用創出を図り、人口流入を促進していきます。

また、移住・定住の促進を図り、U・I・JターンへのPRやテレワーク等の環境づくりの促進も図りながら、2040年（平成52年）を目途に社会動態±0を目指します。

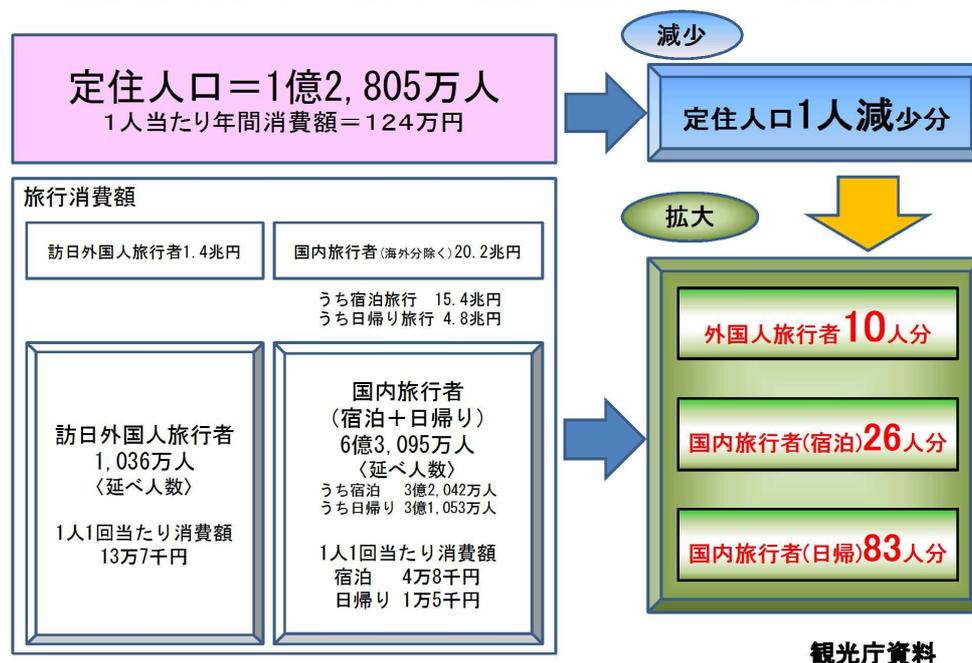
（※2040年までは、純移動率を1/2で推計）

ウ 地域資源を活かした産業と観光による交流人口の増加を図る

本市の持つ地域資源を積極的に活用し、積極的に国内はもちろん、海外にも情報発信を行い、交流人口の増加を図り、地域の賑わいや活力を向上していきます。

【表—10】

観光交流人口増大の経済効果(2013年試算)



【表—10】解説

- ・定住人口は、2010年国勢調査(総務省)、定住人口1人当たり年間消費額は2013年家計調査(総務省)による。
- ・旅行消費額の訪日外国人旅行は、訪日外国人消費動向調査(2013年)より算出。国内旅行は旅行・観光消費動向調査(2013年 年俸)より算出。
- ・訪日外国人旅行者はJNTO(2013年)発表数値、国内旅行者は旅行・観光消費動向調査(2013年 年俸)より算出。
- ・訪日外国人旅行者1人1回当たりの消費額は訪日外国人消費動向調査(2013年)、国内旅行者(宿泊/日帰り)1人1回当たり消費額は旅行・観光消費動向調査(2013年 年俸)より算出。
- ・定住人口1人減少分に相当する旅行人数は、定住人口1人当たり年間消費額を訪日外国人旅行者又は国内旅行者1人1回当たり消費額で除したもの。(※観光庁資料)

おわりに

人口減少対策は、長期的な視点に立ち、継続的な取り組みが必要です。

現時点において、必ずしも私達の日常生活にすぐに影響が出てくるといったものではありませんが、早急に対処していかないと取り返しのつかない状況にもなりかねません。

市民の皆様はもちろん、企業、金融機関等のあらゆる皆様と市民力を結集し、“チーム菊池”として、未来の子どもたちが安心して暮らせるように、人口減少対策に取り組んで参ります。

菊池市長期人口ビジョン

策定資料

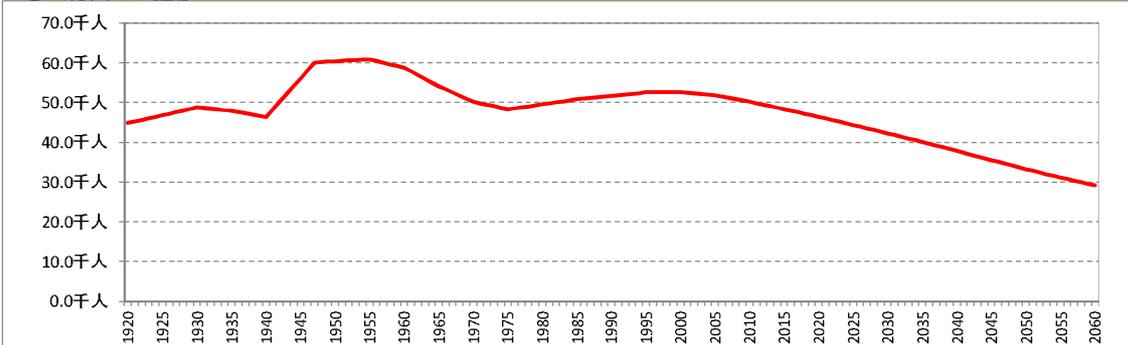
資料目次

No.	項 目	頁
①	総人口の推移	-資料1-
②	年齢3区分別 総人口の推移	-資料1-
③	出生・死亡、転入・転出数の推移	-資料2-
④	自然増減と社会増減の影響	-資料3-
⑤	年齢階級別純移動数	-資料4-
⑥	地域別の人口移動の状況と純移動 男女別	-資料5-
⑦	年齢階級別 人口移動数について	-資料6-
⑧	将来人口推計について	-資料7-
⑨	将来の人口減少段階把握	-資料8-
⑩	将来人口シミュレーションについて	-資料9-
⑪	年齢3区分人口比率の長期推計	-資料10-
⑫-1	2012年 年齢階級別転入・転出者数	-資料11-
⑫-2	2013年 年齢階級別転入・転出者数	-資料12-
⑬-1	2012年 年齢階級別純移動数	-資料13-
⑬-2	2013年 年齢階級別純移動数	-資料14-
⑭	転入・転出数及び転入先・転出先について	-資料15-
⑮	将来人口ピラミッドについて	-資料16-
⑯	出生数と合計特殊出生率	-資料17-
⑰⑱	男女別産業人口と年齢階級別産業人口割合	-資料18-
⑲-1	転入・転出者数の状況(図) 2012年度	-資料19-
⑲-2	転入・転出者数の状況(図) 2013年度	-資料20-
⑳	熊本県内市町村の将来人口指数	-資料21-
㉑	熊本県内市町村の将来人口における自然増減・社会増減の影響度	-資料22-
㉒	熊本県(全体・市の計・郡の計) 将来人口ピラミッド	-資料23-
㉓	熊本県内市町村の昼夜間人口比率	-資料24-
㉔	熊本県内 各市町村の人口ピラミッド	-資料25-
㉕	人口の推移(旧市町村別)	-資料26-
㉖-1	人口の推移(年齢3区分含む)旧菊池	-資料27-
㉖-2	人口の推移(年齢3区分含む)旧七城	-資料28-
㉖-3	人口の推移(年齢3区分含む)旧旭志	-資料29-
㉖-4	人口の推移(年齢3区分含む)旧泗水	-資料30-

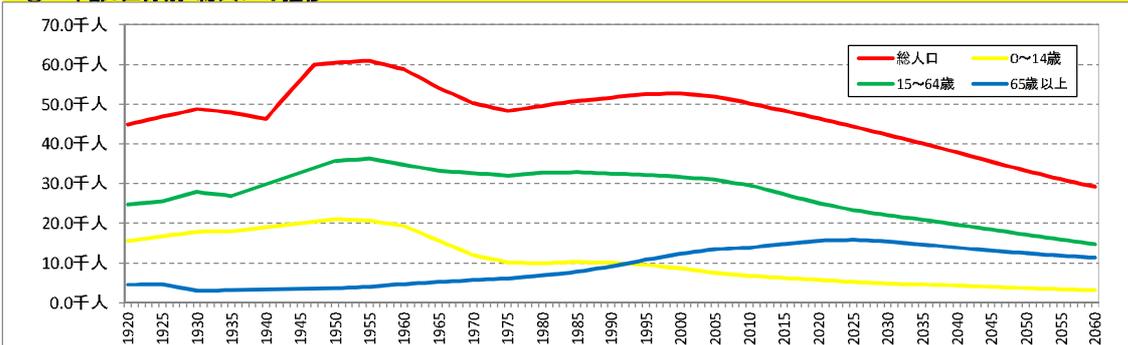
①②総人口の推移(年齢3区分含む) 2010年まで国勢調査であり、以降は社人研推定。

【菊池市】 【43210】

① 総人口の推移



② 年齢3区分別 総人口の推移



-資料1-

③出生・死亡、転入・転出数の推移 2010年まで国勢調査であり、以降は社人研推定。

【菊池市】 【43210】

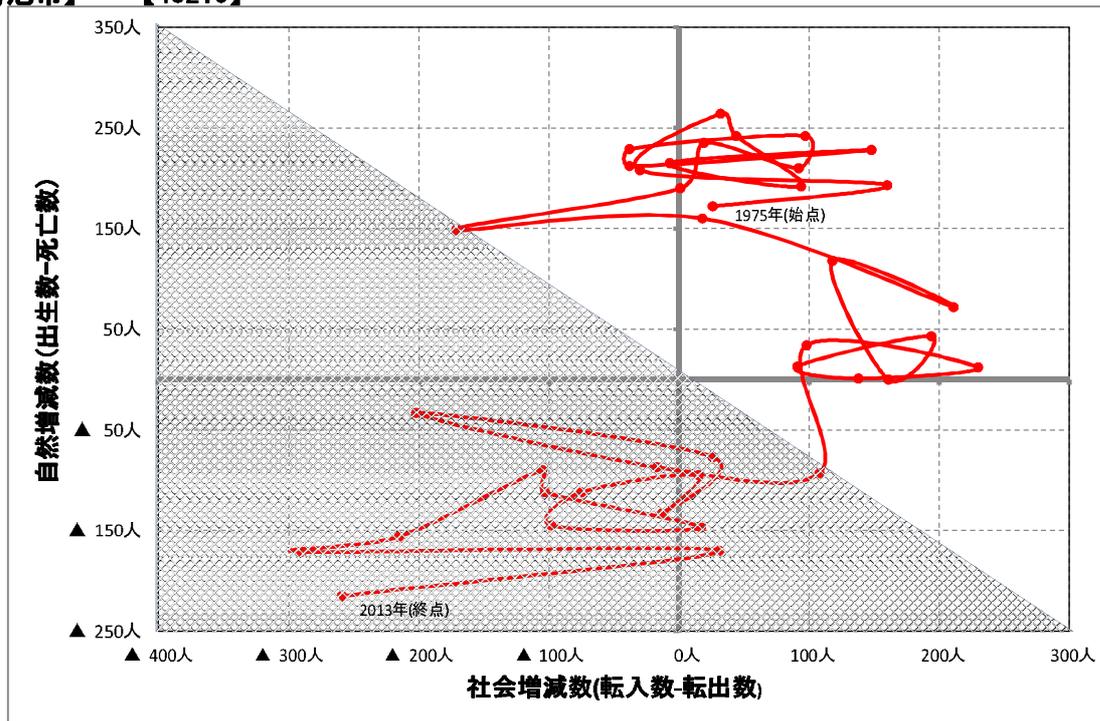
出生・死亡、転入・転出の推移



-資料2-

④自然増減と社会増減の影響

【菊池市】 【43210】



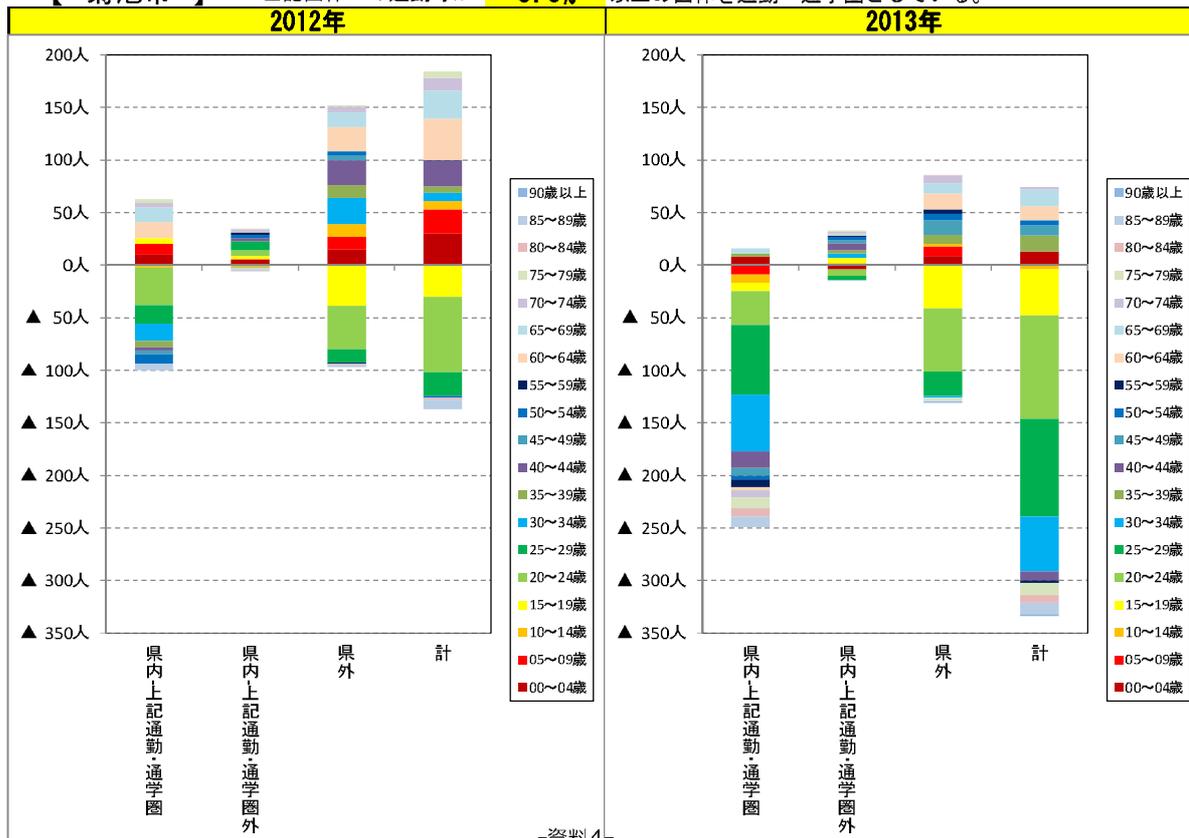
-資料3-

⑤年齢階級別純移動数

【菊池市】 左記団体への通勤等が **0.6%** 以上の団体を通勤・通学圏としている。

通勤・通学圏
(0.6%以上)

熊本市
玉名市
山鹿市
阿蘇市
合志市
玉東町
和水町
大津町
菊陽町
西原村
南阿蘇村
益城町



-資料4-

⑥地域別の人口移動の状況と純移動 男女別

【菊池市】

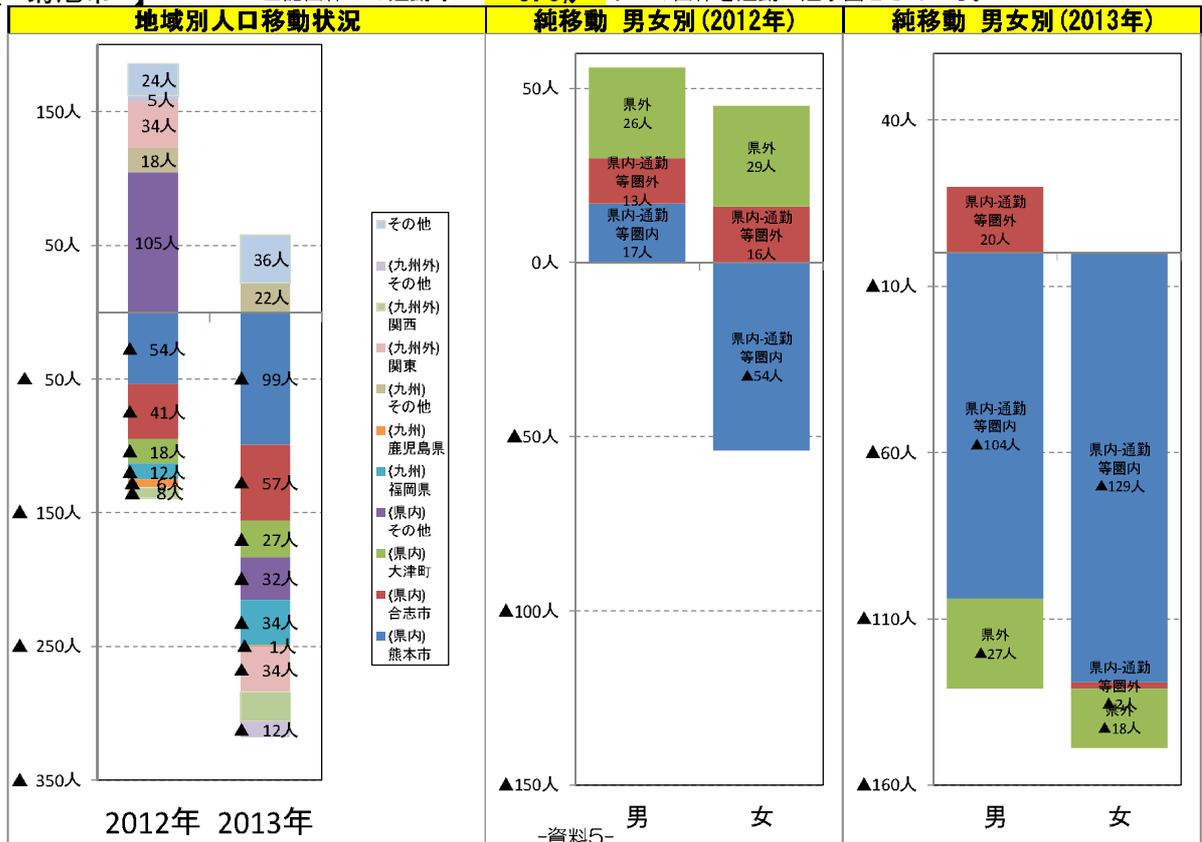
左記団体への通勤等が

0.6%

以上の団体を通勤・通学圏としている。

通勤・通学圏
(0.6%以上)

熊本市
玉名市
山鹿市
阿蘇市
合志市
玉東町
和水町
菊陽町
津陽町
西原村
南阿蘇村
益城町



⑦年齢階級別 人口移動数について

【菊池市】

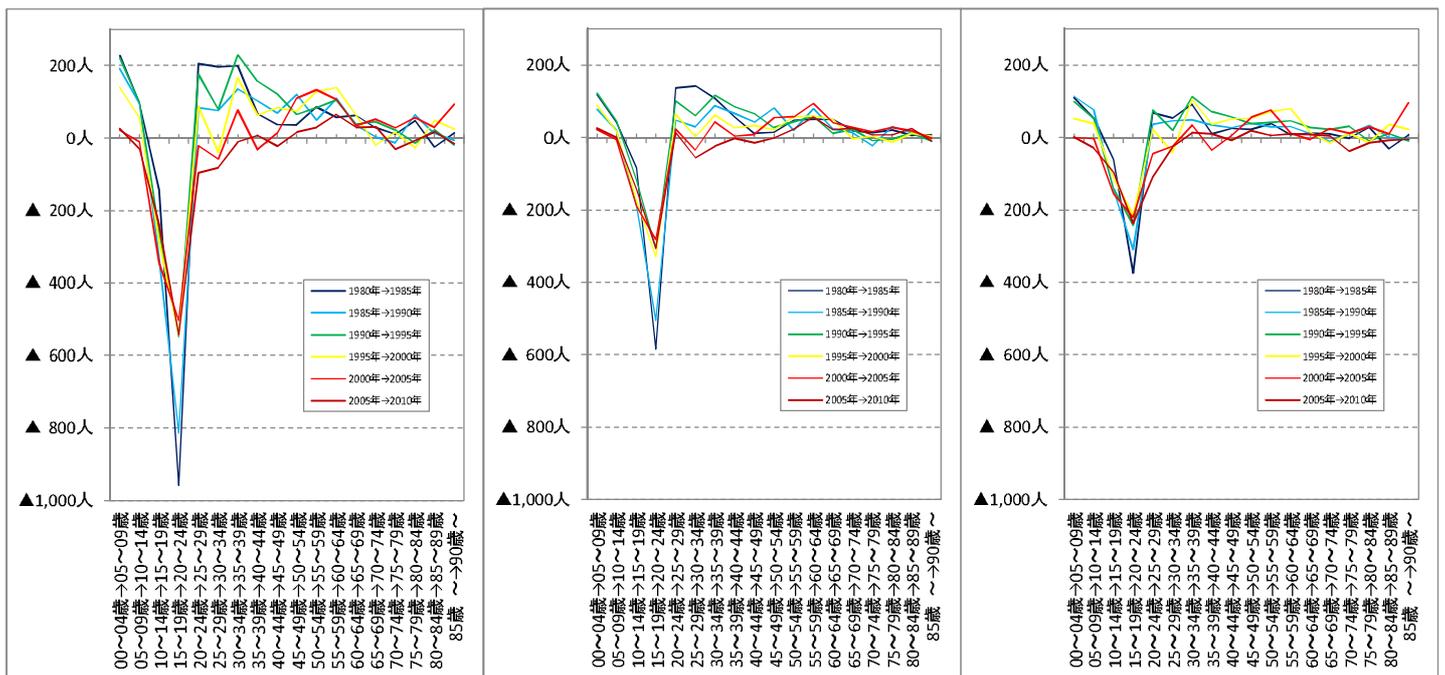
【43210】

【1635】

移動数全体

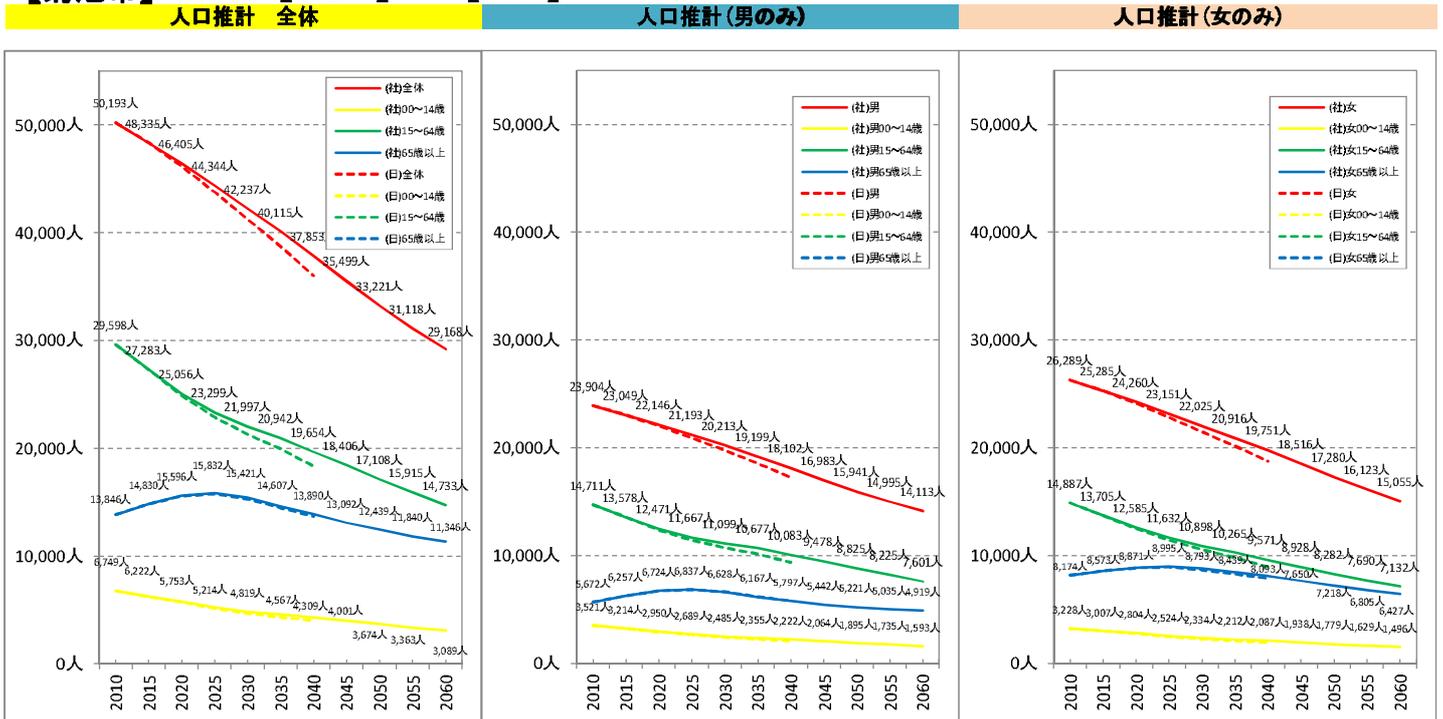
移動数(男のみ)

移動数(女のみ)



⑧将来人口推計について (社人研推計と民間機関推計準拠(日本創生会議推計))

【菊池市】 【43210】 【1635】

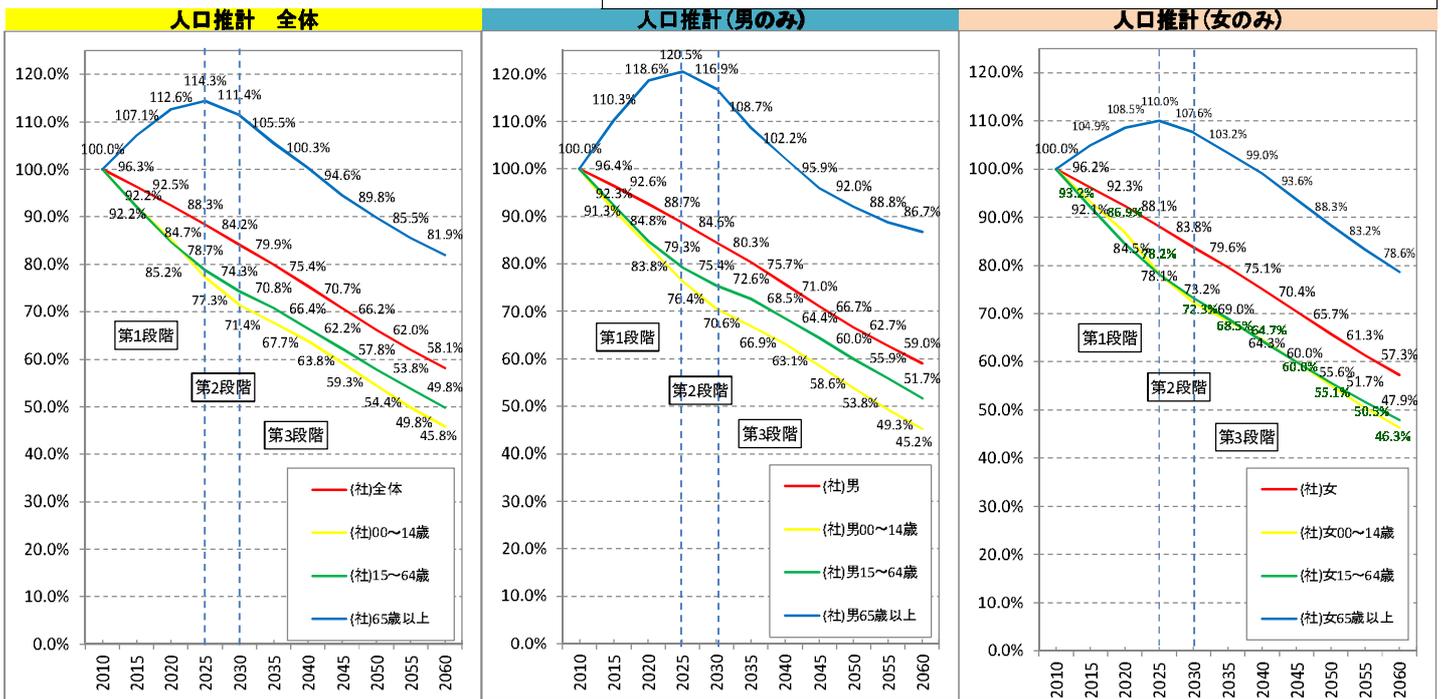


-資料7-

⑨将来の人口減少段階把握 (社人研推計より)

【菊池市】 【43210】 【1635】

【第1段階】…老年人口増加、年少・生産年齢人口減少
 【第2段階】…老年人口維持・微減、年少・生産年齢人口減少
 【第3段階】…老年人口減少、年少・生産年齢人口減少



-資料8-

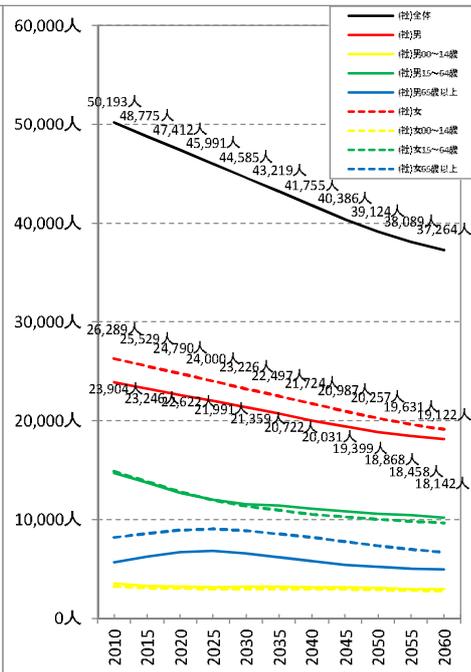
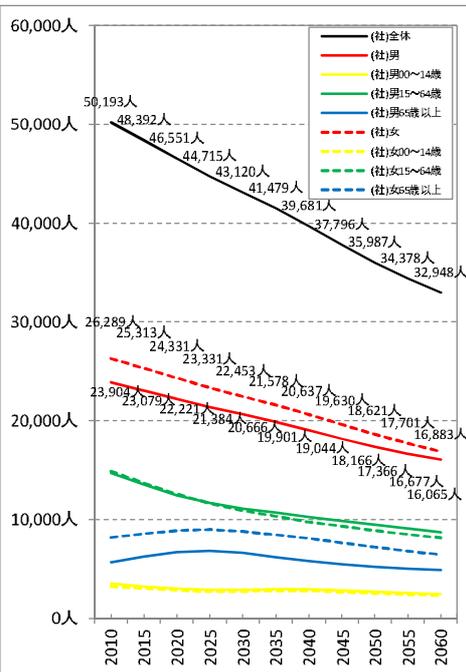
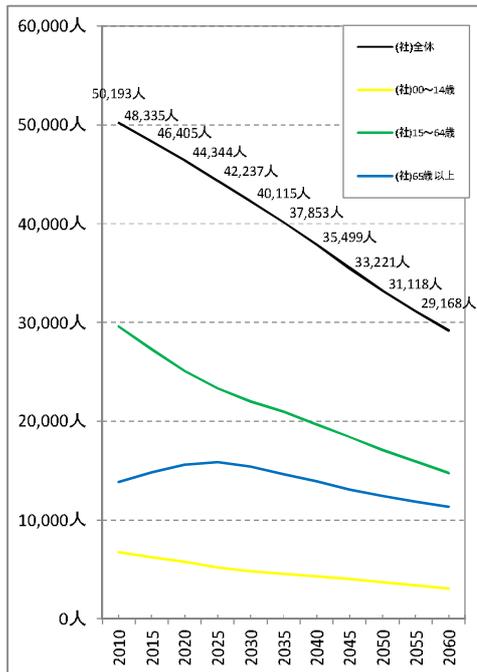
⑩将来人口シミュレーションについて (①…合計特殊出生率2.1まで上昇。②…①かつ人口移動が均衡)

【菊池市】 【43210】 【1635】

人口推計 全体

シミュレーション①

シミュレーション②



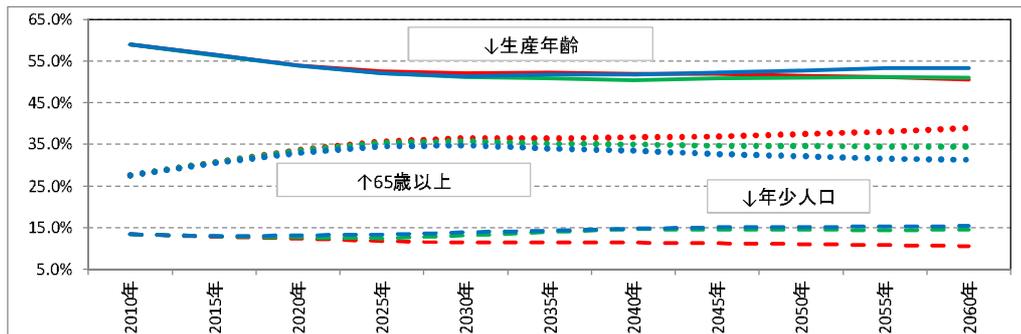
-資料9-

⑪年齢3区分人口比率の長期推計

【菊池市】 【43210】 【1635】

パターン1 …社人研の推計値
シミュレーション1…合計特殊出生率が2.1まで上昇した場合
シミュレーション2…①かつ人口移動が均衡した場合

パターン1	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	50,193人	48,335人	46,405人	44,344人	42,237人	40,115人	37,853人	35,499人	33,221人	31,118人	29,168人
年少人口比率	13.4%	12.9%	12.4%	11.8%	11.4%	11.4%	11.4%	11.3%	11.1%	10.8%	10.6%
生産年齢人口比率	59.0%	56.4%	54.0%	52.5%	52.1%	52.2%	51.9%	51.8%	51.5%	51.1%	50.5%
65歳以上人口比率	27.6%	30.7%	33.6%	35.7%	36.5%	36.4%	36.7%	36.9%	37.4%	38.0%	38.9%
75歳以上人口比率	15.7%	17.2%	18.0%	20.4%	22.8%	24.4%	24.6%	23.8%	23.7%	24.0%	24.9%
シミュレーション1	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	50,193人	48,392人	46,551人	44,715人	43,120人	41,479人	39,681人	37,796人	35,987人	34,378人	32,948人
年少人口比率	13.4%	13.0%	12.7%	12.5%	13.1%	14.0%	14.6%	14.5%	14.5%	14.5%	14.5%
生産年齢人口比率	59.0%	56.4%	53.8%	52.1%	51.1%	50.8%	50.4%	50.8%	51.0%	51.1%	51.1%
65歳以上人口比率	27.6%	30.6%	33.5%	35.4%	35.8%	35.2%	35.0%	34.6%	34.6%	34.4%	34.4%
75歳以上人口比率	15.7%	17.3%	18.1%	20.4%	22.6%	24.0%	23.9%	22.7%	22.3%	22.2%	22.7%
シミュレーション2	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	50,193人	48,775人	47,412人	45,991人	44,585人	43,219人	41,755人	40,386人	39,124人	38,089人	37,264人
年少人口比率	13.4%	13.0%	13.2%	13.4%	13.9%	14.3%	14.8%	15.1%	15.2%	15.2%	15.4%
生産年齢人口比率	59.0%	56.6%	53.9%	52.1%	51.4%	51.7%	51.7%	52.2%	52.6%	53.2%	53.3%
65歳以上人口比率	27.6%	30.4%	32.9%	34.5%	34.7%	34.0%	33.5%	32.7%	32.1%	31.6%	31.3%
75歳以上人口比率	15.7%	17.0%	17.6%	19.7%	21.6%	22.6%	22.3%	20.9%	20.2%	19.6%	19.5%



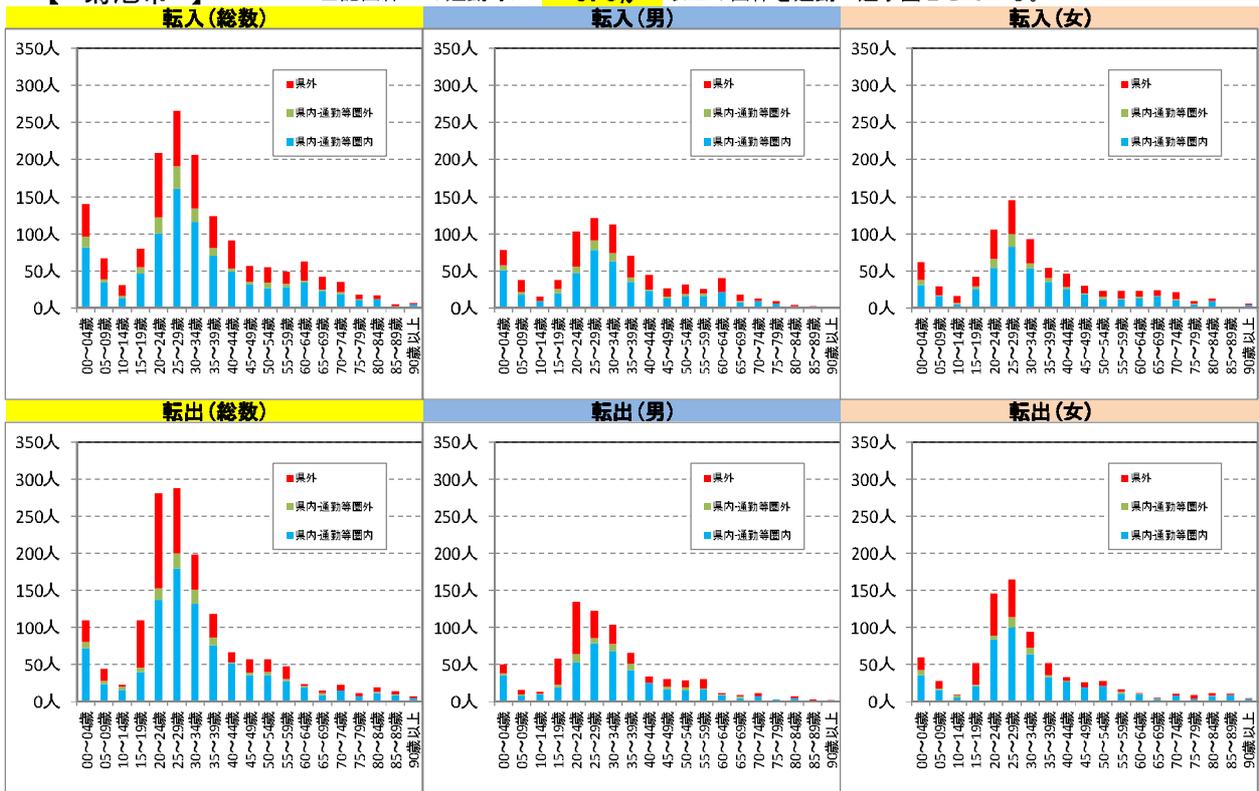
破線	年少人口比率
実線	生産年齢人口比率
点線	65歳以上人口比率

-資料10-

⑫-1 2012年 年齢階級別転入・転出者数(総数・男・女)について (通勤等圏)

【 菊池市 】

左記団体への通勤等が **0.6%** 以上の団体を通勤・通学圏としている。

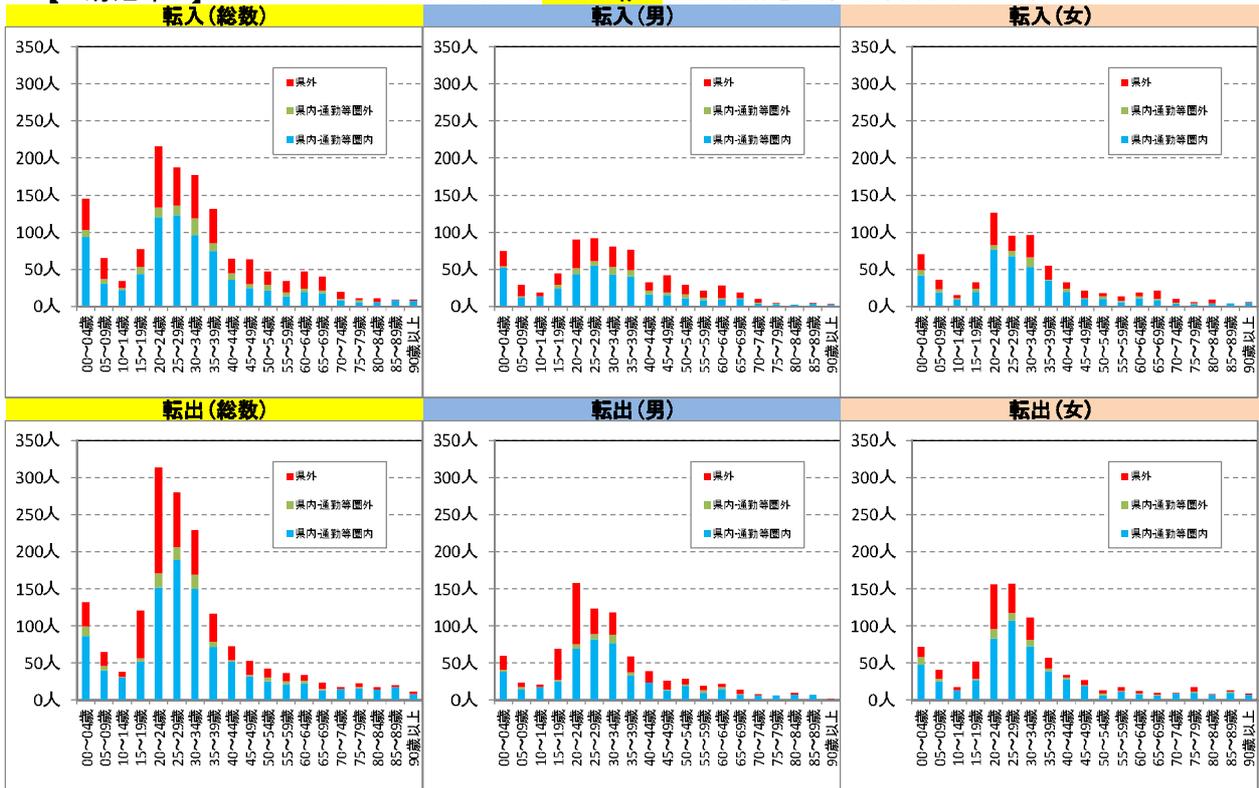


資料11-

⑫-2 2013年 年齢階級別転入・転出者数(総数・男・女)について (通勤等圏)

【 菊池市 】

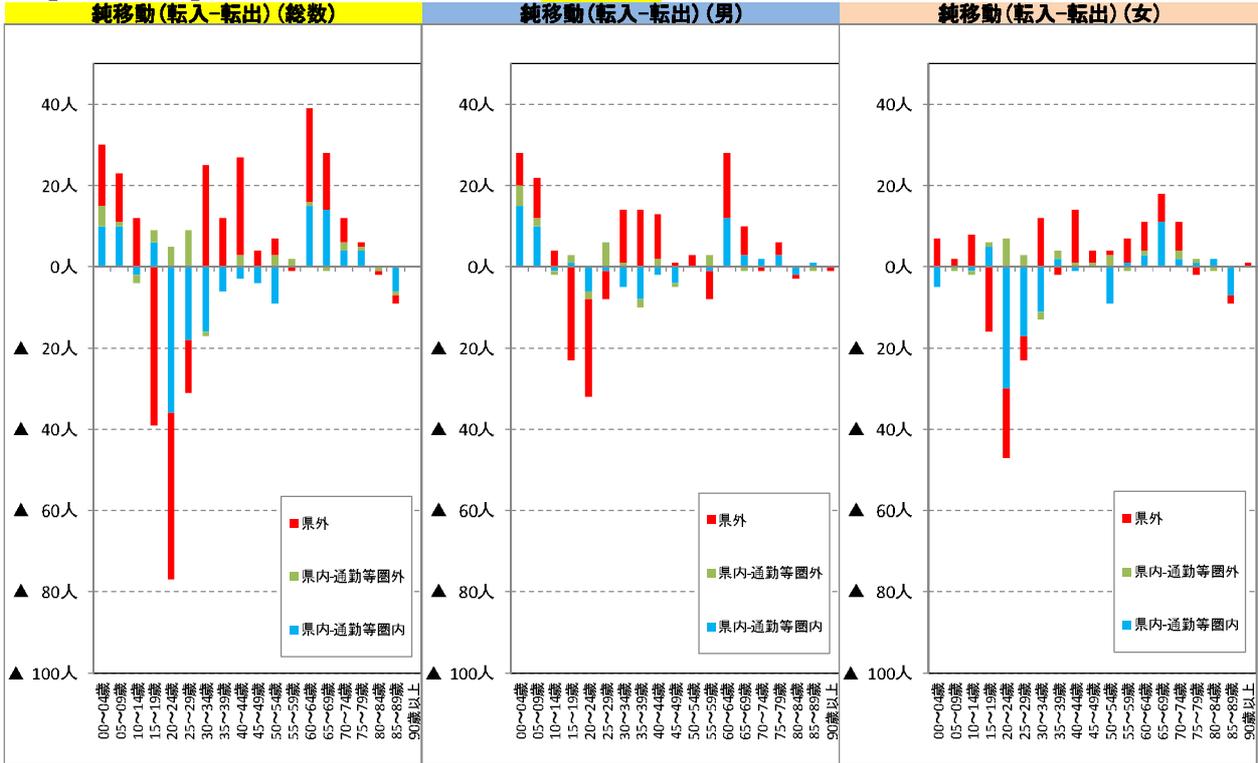
左記団体への通勤等が **0.6%** 以上の団体を通勤・通学圏としている。



資料12-

⑬-1 2012年 年齢階級別純移動数(総数・男・女)について (通勤等圏)

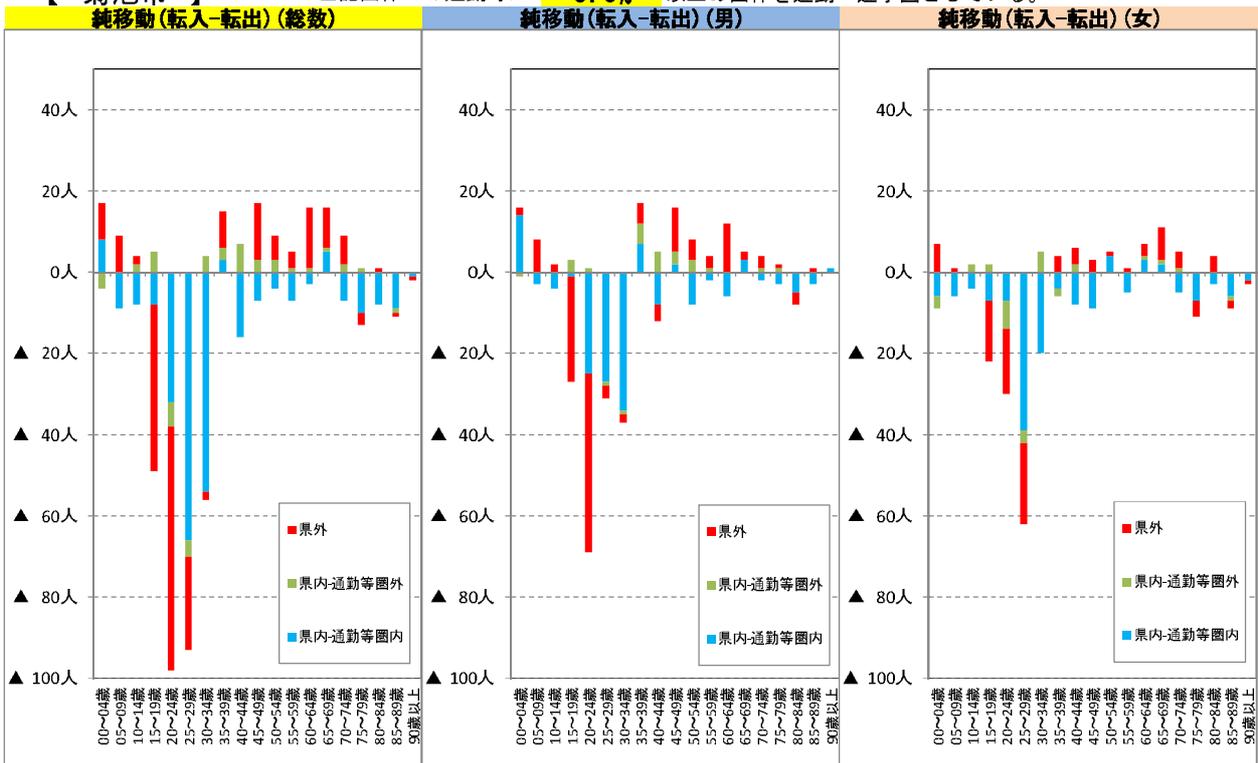
【 菊池市 】 左記団体への通勤等が 0.6% 以上の団体を通勤・通学圏としている。



資料13-

⑬-2 2013年 年齢階級別純移動数(総数・男・女)について (通勤等圏)

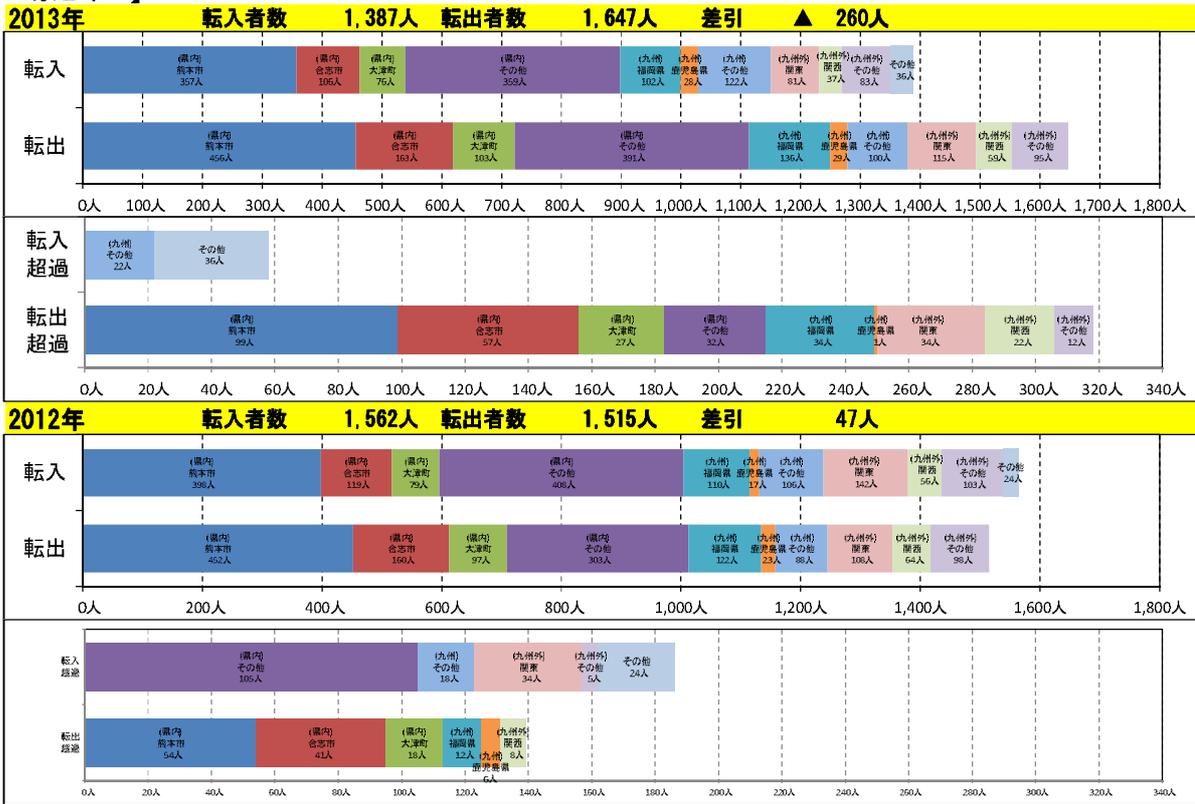
【 菊池市 】 左記団体への通勤等が 0.6% 以上の団体を通勤・通学圏としている。



資料14-

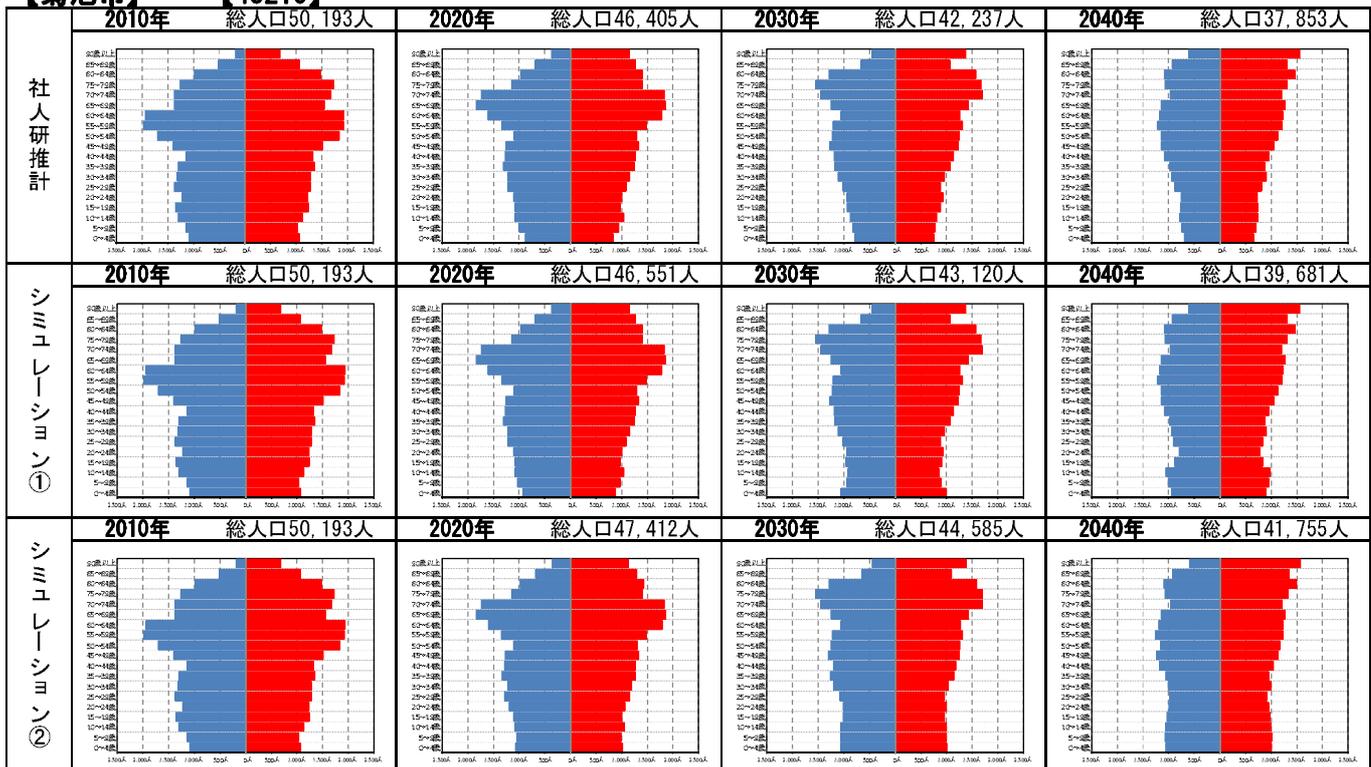
⑭転入・転出数及び転入先・転出先について (2012年・2013年)

【菊池市】



⑮将来人口ピラミッドについて (①…合計特殊出生率2.1まで上昇。②…①かつ人口移動が均衡)

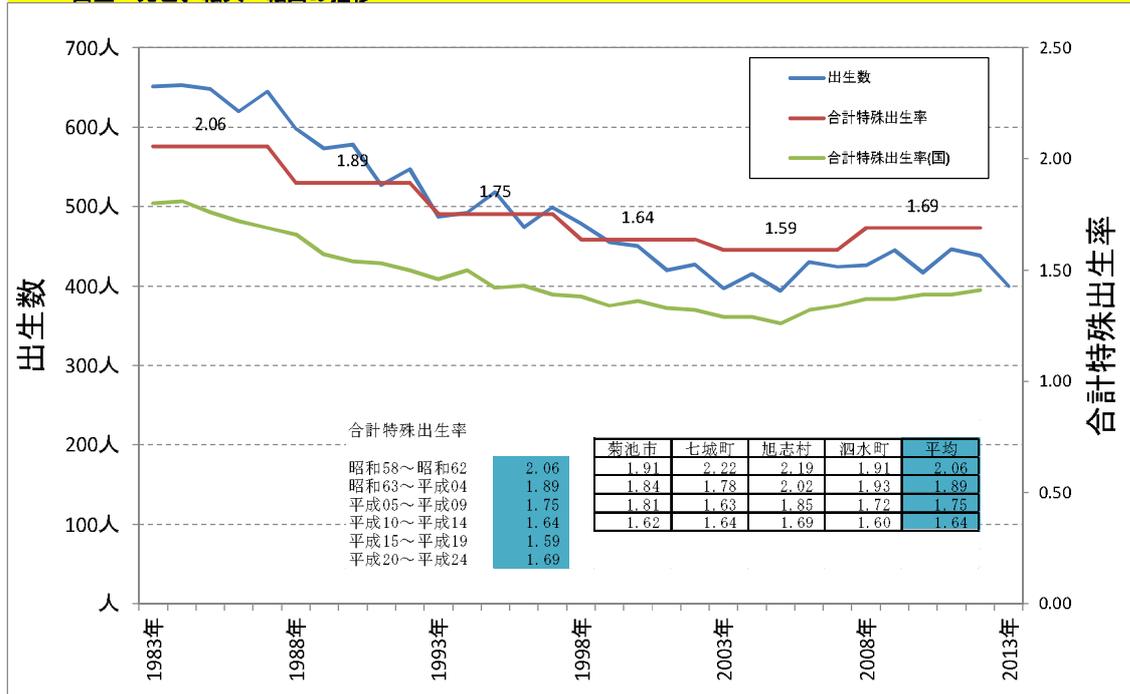
【菊池市】 【43210】



⑩出生数と合計特殊出生率

【菊池市】 【43210】

出生・死亡・転入・転出の推移

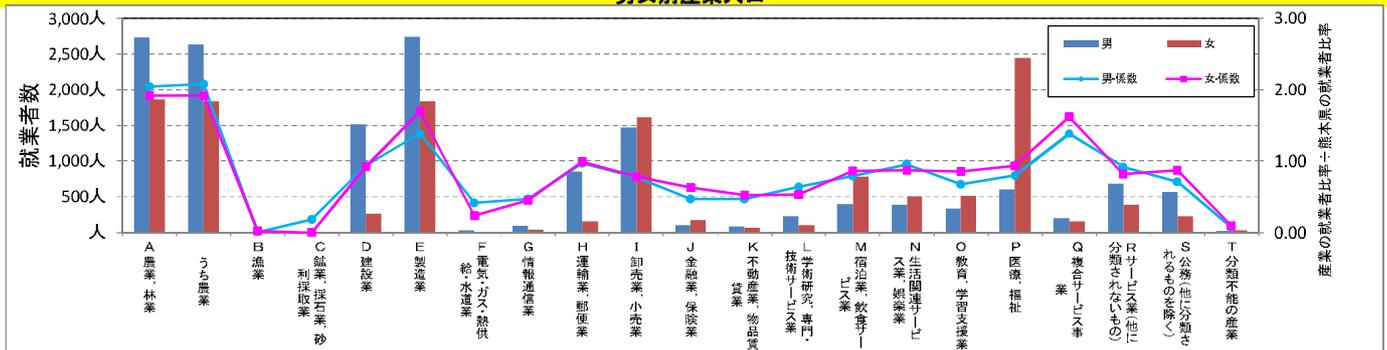


-資料17-

⑩男女別産業人口と年齢階級別産業人口割合

【菊池市】 【43210】

男女別産業人口



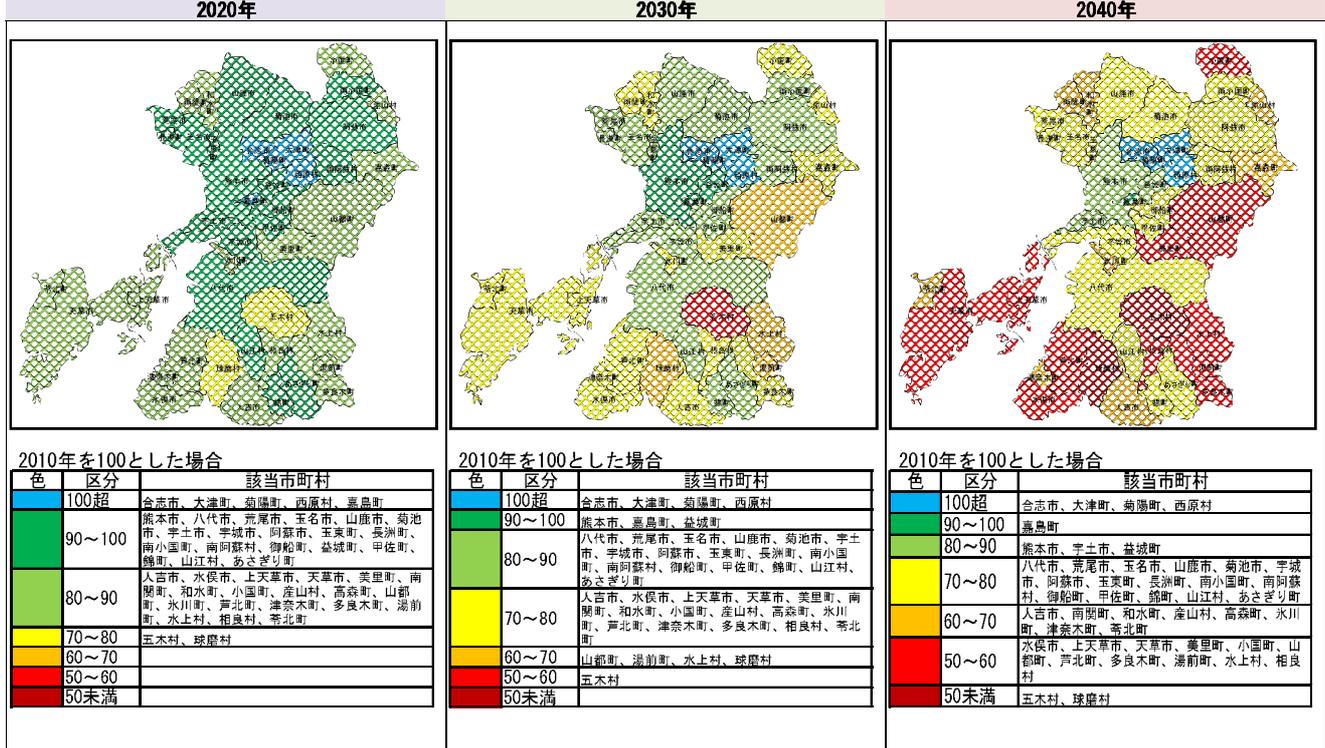
年齢階級別産業人口割合(主なもの)



-資料18-

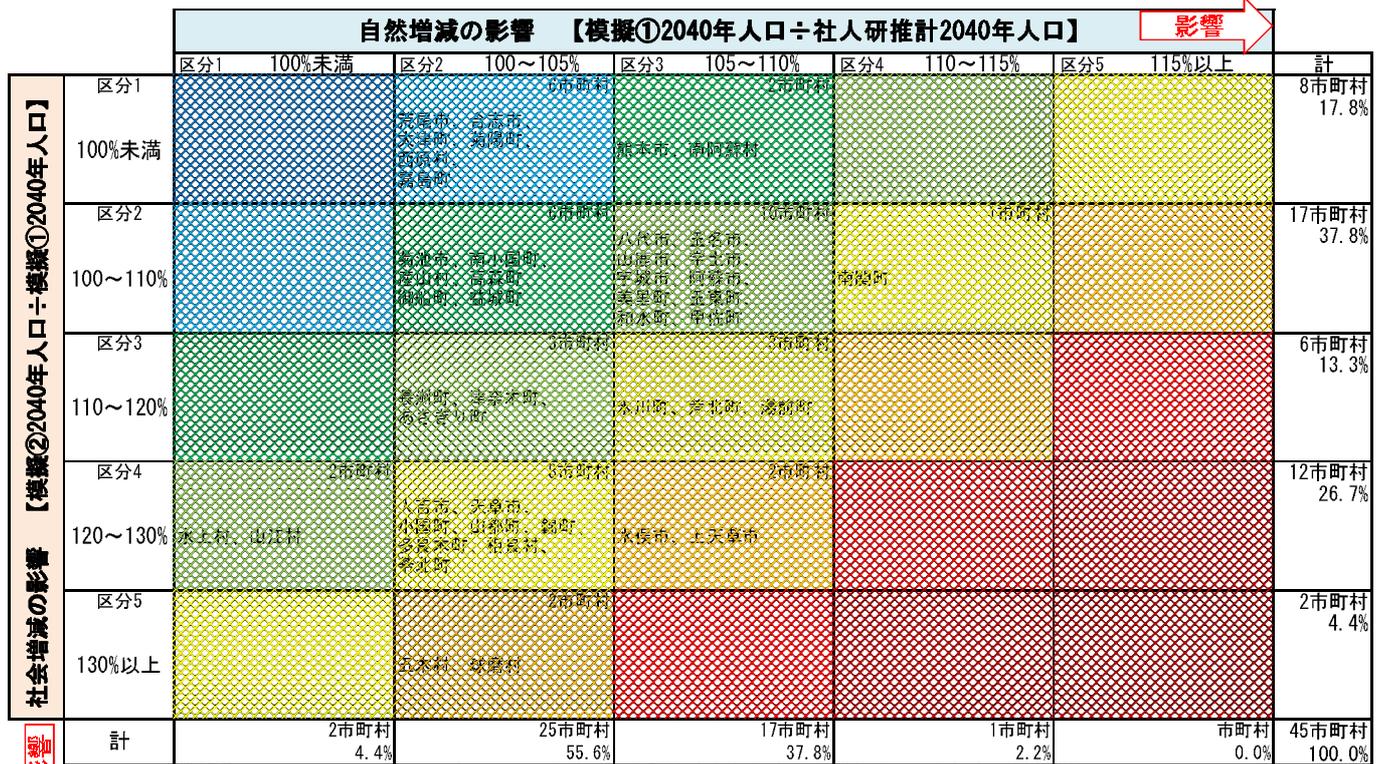
⑫ 熊本県内市町村の将来人口指数(社人研データ)

2010年を100とした場合の各市町村毎の人口増減状況



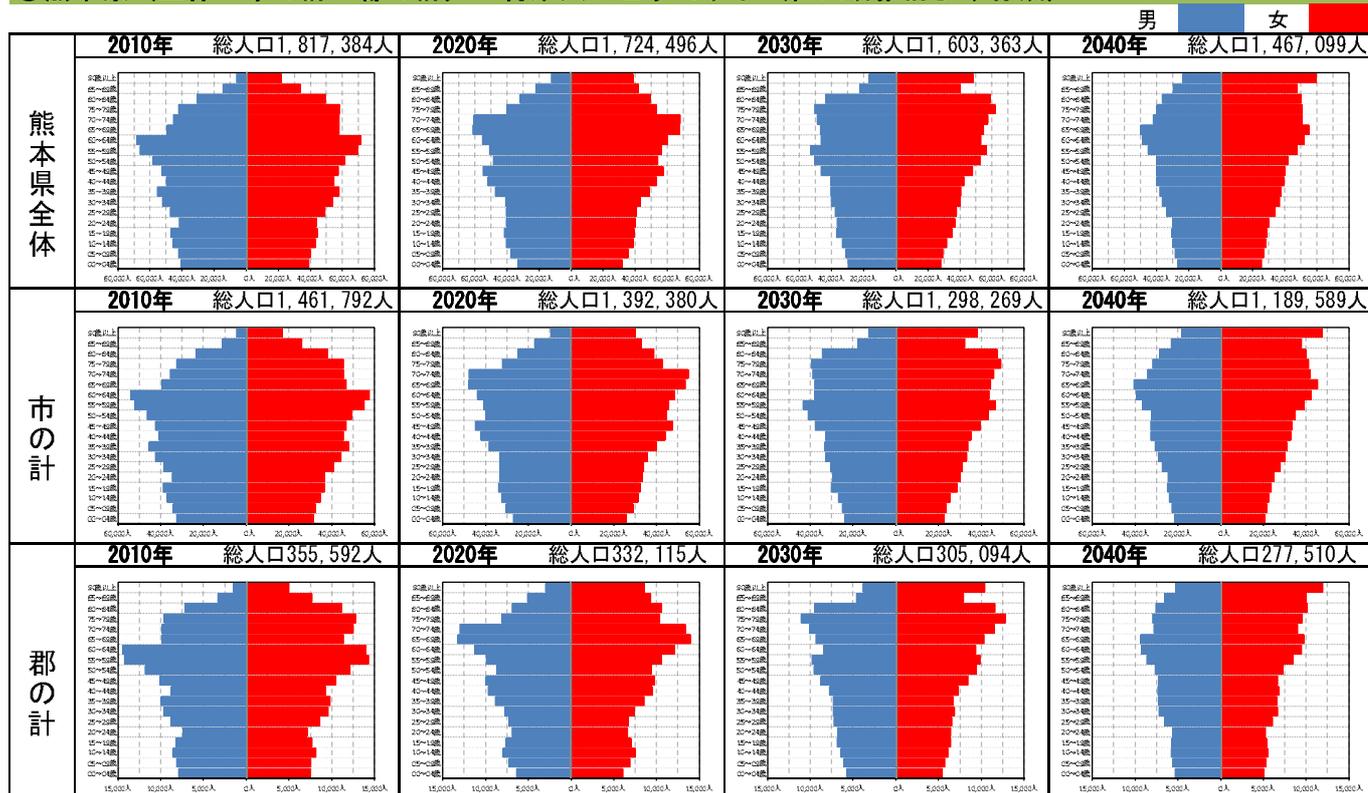
-資料21-

⑬ 熊本県内市町村の将来人口における自然増減・社会増減の影響度(社人研データ)



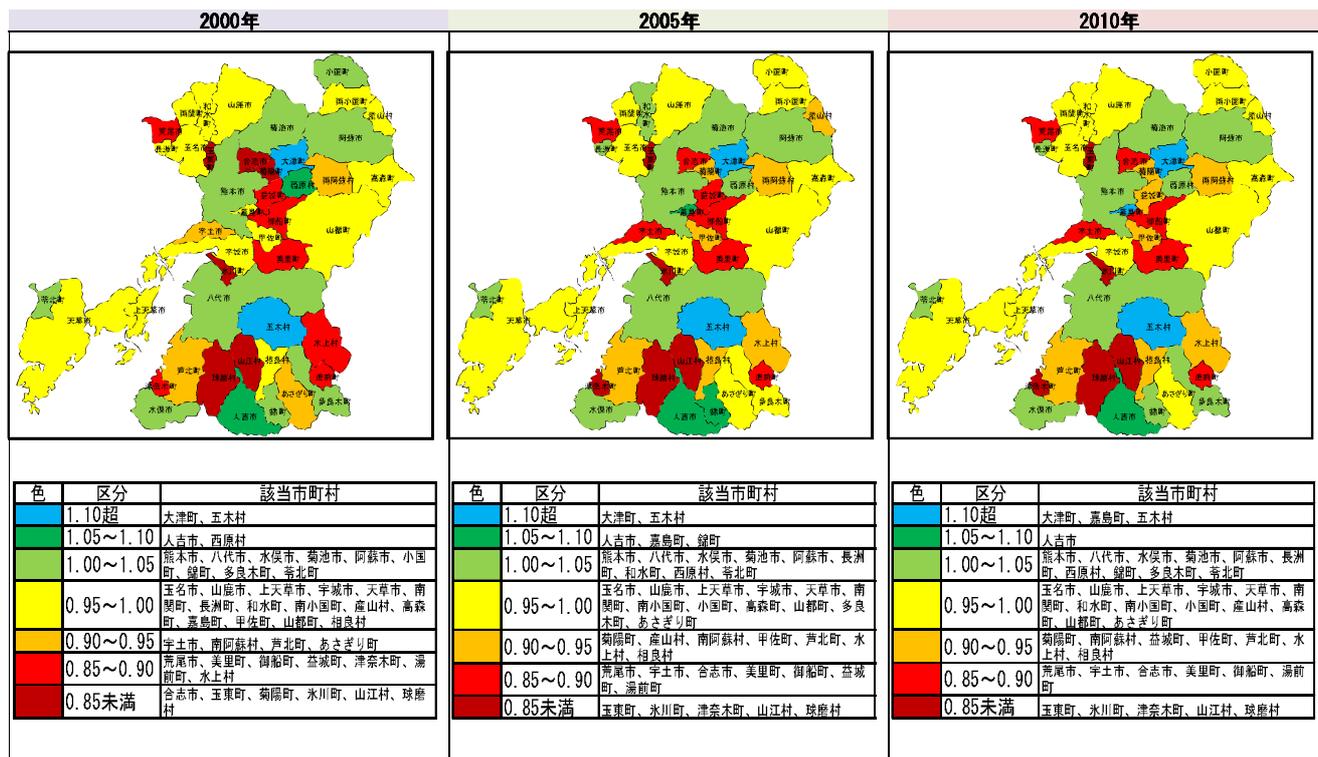
-資料22-

⑳ 熊本県（全体・市の計・郡の計） 将来人口ピラミッド（社人研推計より作成）



-資料23-

㉑ 熊本県内市町村の昼夜間人口比率（2015年2月 内閣府配付データより作成）



昼夜間人口比率=昼間人口÷人口

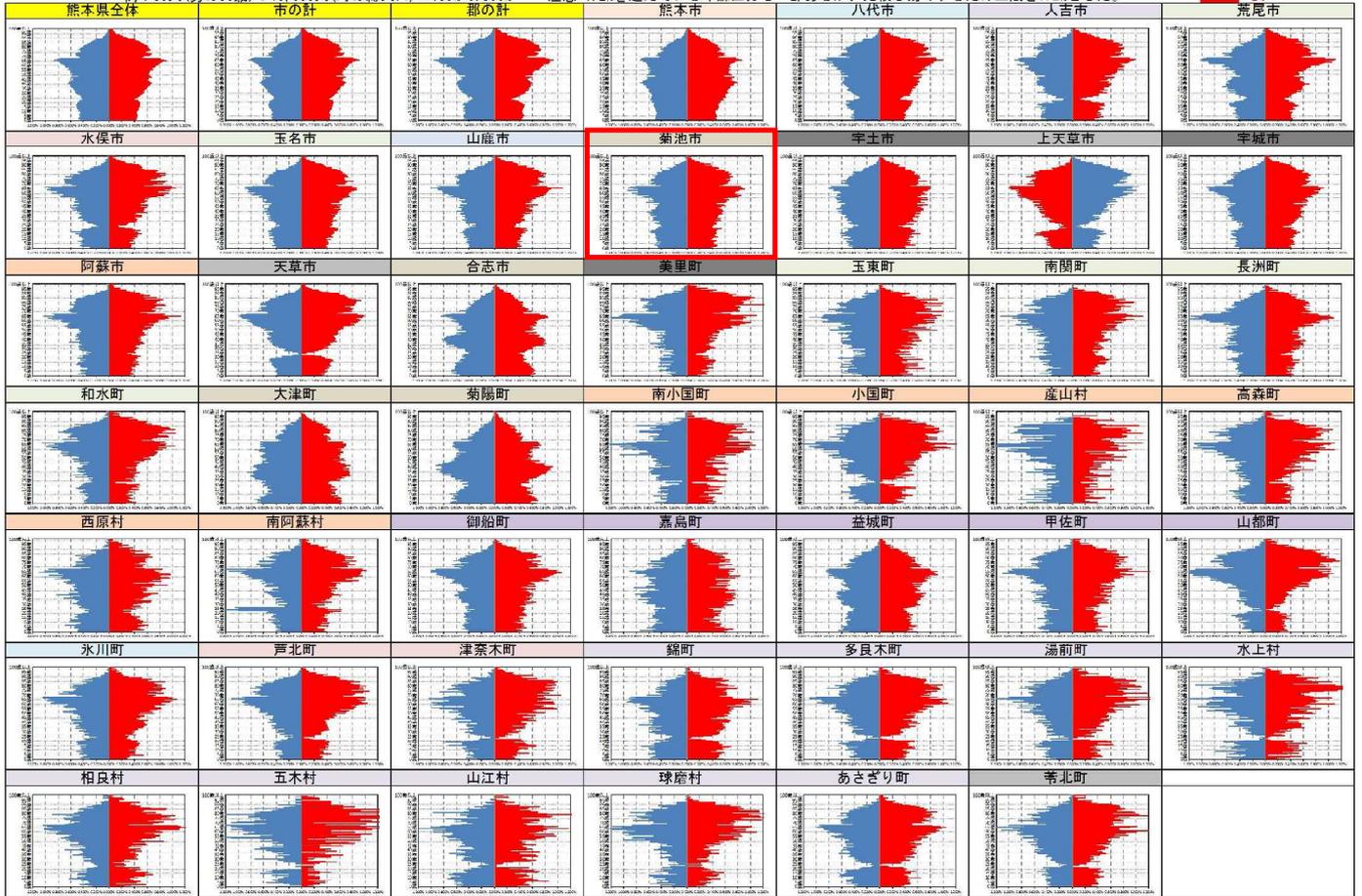
昼間人口=(人口-当地に常住する就業者・通学者数+当地で従業・通学する就業者・通学者数)

-資料24-

⑭熊本県内 各市町村の人口ピラミッド(平成26年10月1日 統計調査公表資料よりグラフを作成)

計算方法 各年齢の人口をその市町村の総人口で割っている。例えば、総人口10,000人の町において、男の50歳が80人いる場合、下記例のとおり。
 例：80人(男の50歳)÷10,000人(町の総人口)×100%=0.800% 注意：1.2%を超えている年齢区分も一部あるが、比較し易くするため上限を1.2%とした。

男
女



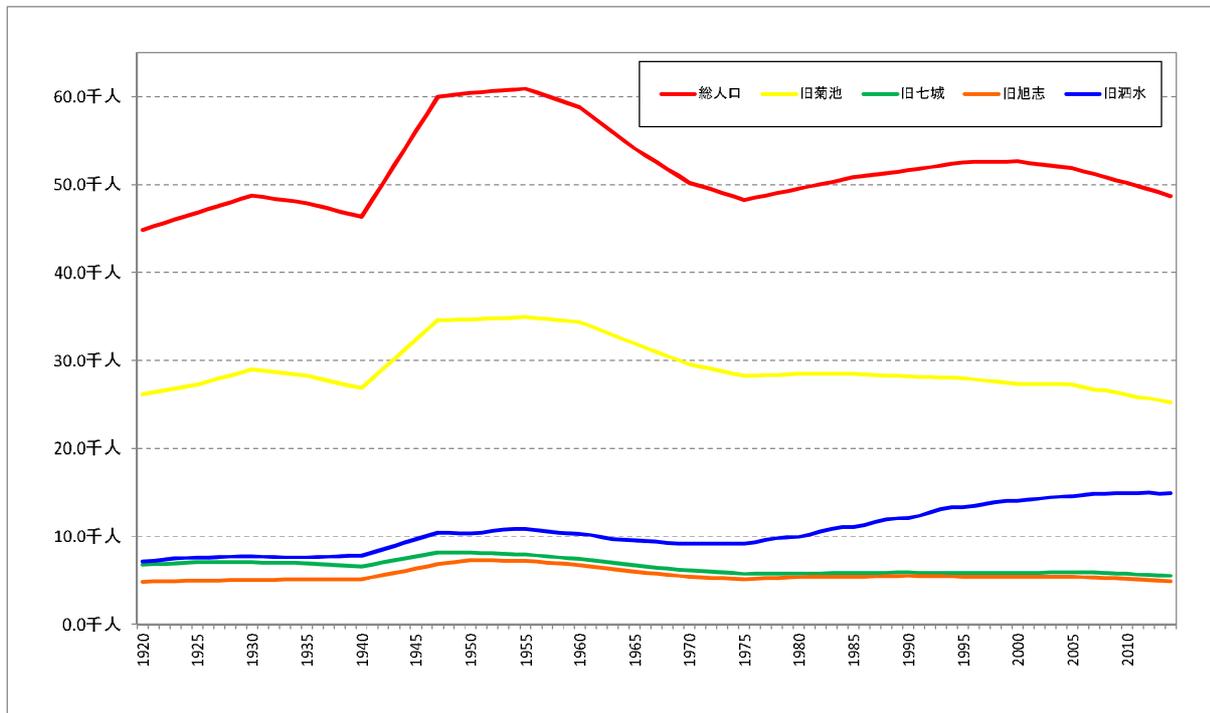
資料25-

⑮ 人口の推移 (旧市町村別)

【菊池市】 【43210】

2000年(H12)まで国勢調査、2005年(H17)以降は住民基本台帳人口(各年9月末現在)

⑮ 総人口の推移



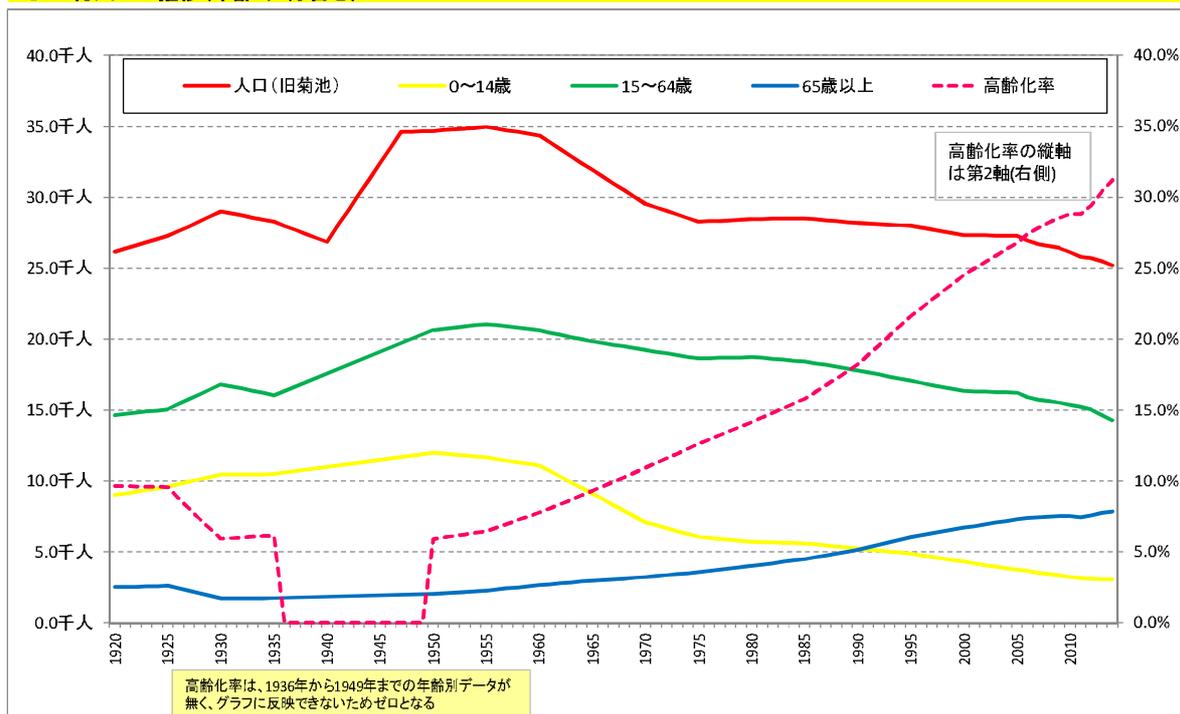
資料26-

②⑥ 総人口の推移(年齢3区分含む)

【旧菊池】

2000年(H12)まで国勢調査、2005年(H17)以降は住民基本台帳人口(各年9月末現在)

②⑥ 総人口の推移(年齢3区分含む)



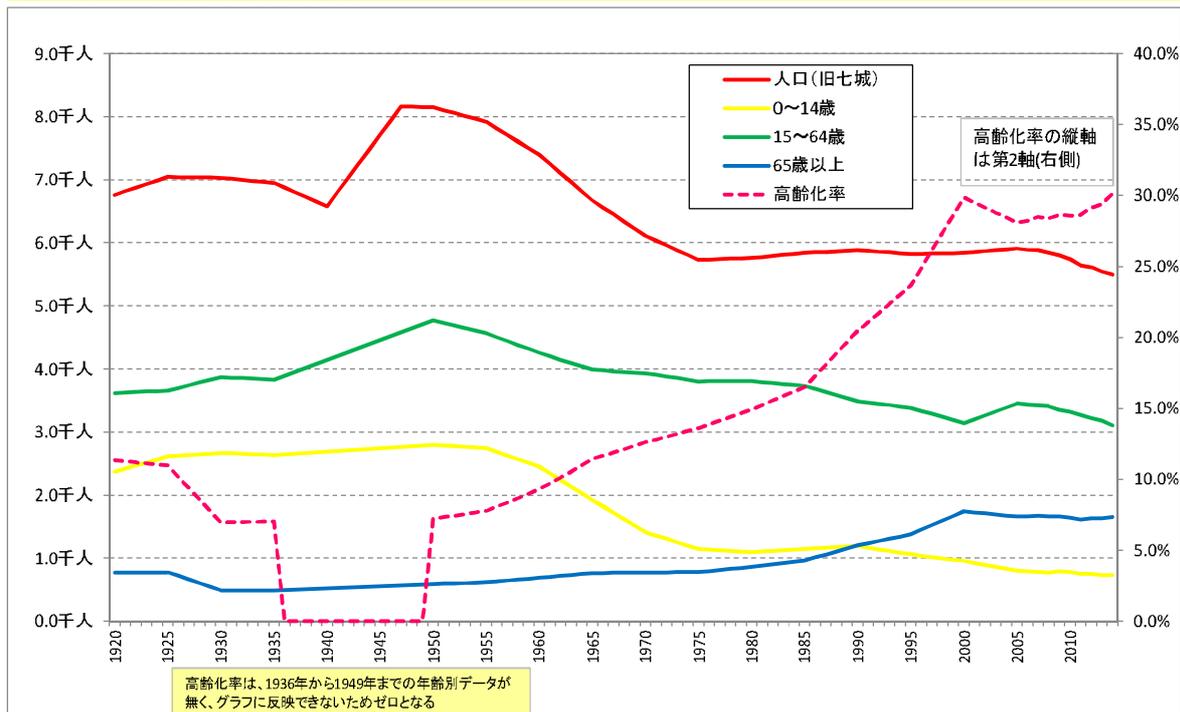
-資料27-

②⑥ 総人口の推移(年齢3区分含む)

【旧七城】

2000年(H12)まで国勢調査、2005年(H17)以降は住民基本台帳人口(各年9月末現在)

②⑥ 総人口の推移(年齢3区分含む)



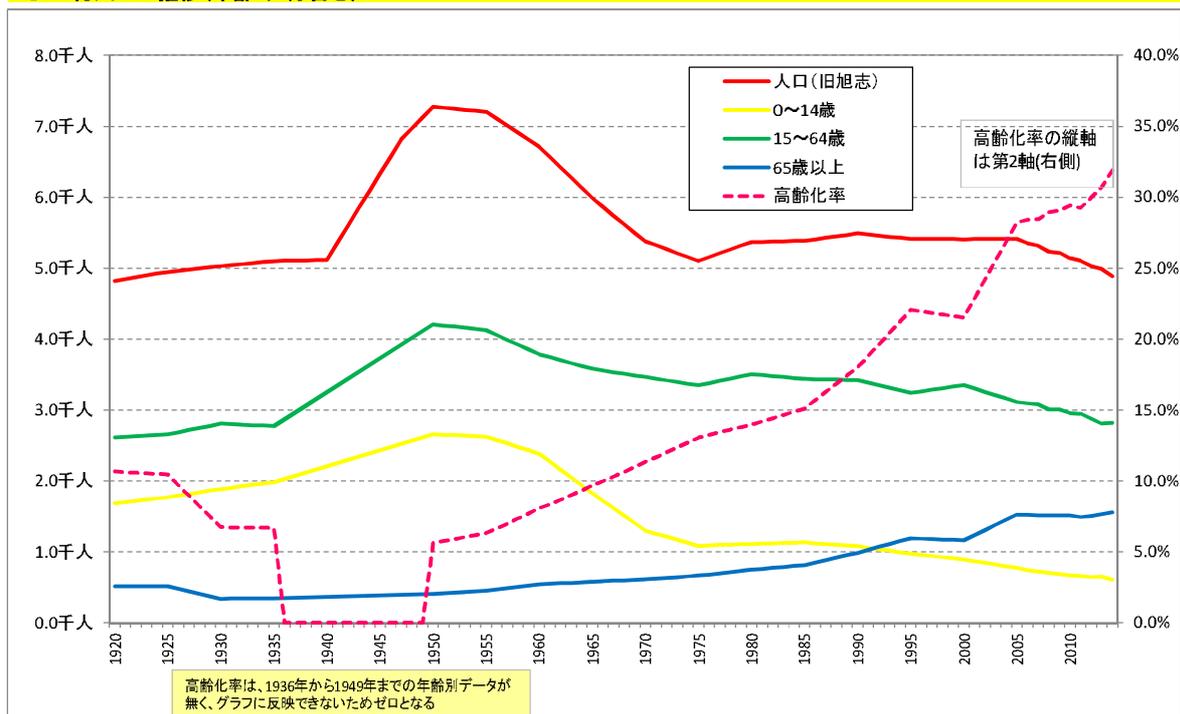
-資料28-

②⑥ 総人口の推移(年齢3区分含む)

【旧旭志】

2000年(H12)まで国勢調査、2005年(H17)以降は住民基本台帳人口(各年9月末現在)

②⑥ 総人口の推移(年齢3区分含む)



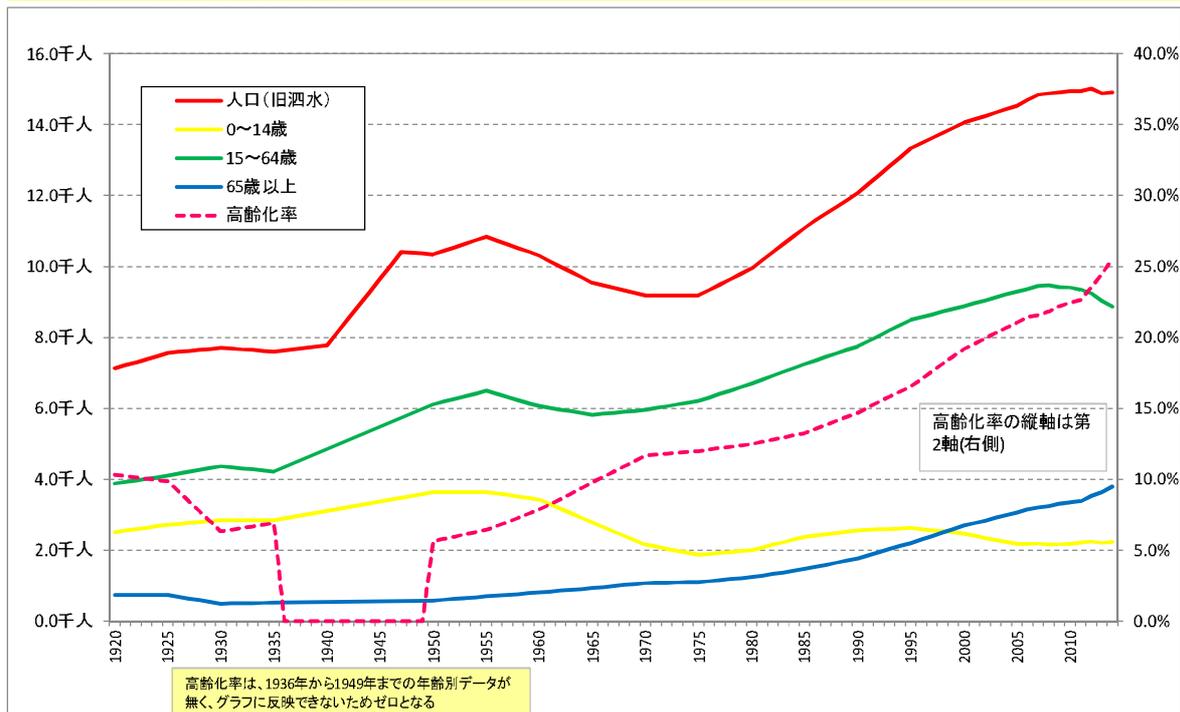
-資料29-

②⑥ 総人口の推移(年齢3区分含む)

【旧泗水】

2000年(H12)まで国勢調査、2005年(H17)以降は住民基本台帳人口(各年9月末現在)

②⑥ 総人口の推移(年齢3区分含む)



-資料30-